

講義コード	M220000101	科目ナンバリング	122F403
講義名	研究指導 I		
英文科目名	Supervised Research I		
担当者名	勝尾 裕子		
単位	2	配当年次	M 2年
時間割	集中(第2学期) その他 集中講義		

授業概要

博士前期課程の学生による修士の学位論文作成のための指導と助言を行う。なお、シラバス上、授業担当者は経営学研究科委員長となっているが、履修登録に際しての便宜的な表示にすぎない。各大学院生の指導教授が実際の指導にあたり、成績評価も行う。

到達目標

修士の学位論文において、先行研究を踏まえて的確かつ明確な研究課題が設定され、それを追求する上で適切な方法論により妥当な研究方法・調査方法が適用されたうえで、妥当な結論が示されること。修士の学位論文における研究が独創的で研究分野に貢献できる内容であること。

授業内容

実施回	内容
第1回	研究指導(1)
第2回	研究指導(2)
第3回	研究指導(3)
第4回	研究指導(4)
第5回	研究指導(5)
第6回	研究指導(6)
第7回	研究指導(7)
第8回	研究指導(8)
第9回	研究指導(9)
第10回	研究指導(10)
第11回	研究指導(11)
第12回	研究指導(12)
第13回	研究指導(13)
第14回	研究指導(14)
第15回	研究指導(15)
第16回	研究指導(16)
第17回	研究指導(17)
第18回	研究指導(18)
第19回	研究指導(19)
第20回	研究指導(20)
第21回	研究指導(21)
第22回	研究指導(22)
第23回	研究指導(23)
第24回	研究指導(24)
第25回	研究指導(25 研究指導(25)
第26回	研究指導(26)
第27回	研究指導(27)
第28回	研究指導(28)
第29回	研究指導(29)
第30回	研究指導(30)

授業方法

研究課題の明確性・的確性、方法論の適切性、研究方法・調査方法の妥当性、結論の妥当性、研究の独創性・研究分野への貢献度、などの観点から修士の学位論文の作成に対して指導教員が指導と助言を行う。

準備学習(予習・復習)

各授業回には、相当の論文執筆進捗を担当教員に提示する必要がある。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学位論文の作成に向けた準備努力と、指導・助言に対する対応を総合的に評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各回の論文執筆進捗に対して、教員が添削その他の方法により助言・指導を行う。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

授業担当者は経営学研究科委員長となっているが、履修登録に際しての形式的な表示事項に過ぎない。各大学院生の指導教授が実際の指導にあたり、成績評価も行う。指導内容について質問等あれば各大学院生の指導教授に問い合わせること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220001101	科目ナンバリング	122F404
講義名	研究指導Ⅱ		
英文科目名	Supervised Research Ⅱ		
担当者名	勝尾 裕子		
単位	2	配当年次	M 2年
時間割	集中(第2学期) その他 集中講義		

授業概要

博士前期課程の学生による特定課題研究作成のための指導と助言を行う。なお、シラバス上、授業担当者は経営学研究科委員長となっているが、履修登録に際しての便宜的な表示に過ぎない。各大学院生の指導教授が実際の指導にあたり、成績評価も行う。特定課題研究による修了を予定する大学院生のみを対象としており、修士論文を予定する大学院生は履修できないので注意すること。

到達目標

特定課題研究において、先行研究を踏まえて的確かつ明確な研究課題が設定されること。特定課題研究における研究課題を追求する上で適切な方法論により妥当な研究方法・調査方法が用いられること。特定課題研究において妥当な研究成果が示されること。特定課題研究が新規性を持つ内容となること。上記以外に、学位規程第10条第2項に定める学位論文等の審査の観点について特に留意すべき事項が研究科委員会から提示された場合には、それらに配慮された特定課題研究となること。

授業内容

実施回	内容
第1回	特定課題研究指導(1)
第2回	特定課題研究指導(2)
第3回	特定課題研究指導(3)
第4回	特定課題研究指導(4)
第5回	特定課題研究指導(5)
第6回	特定課題研究指導(6)
第7回	特定課題研究指導(7)
第8回	特定課題研究指導(8)
第9回	特定課題研究指導(9)
第10回	特定課題研究指導(10)
第11回	特定課題研究指導(11)
第12回	特定課題研究指導(12)
第13回	特定課題研究指導(13)
第14回	特定課題研究指導(14)
第15回	特定課題研究指導(15)
第16回	特定課題研究指導(16)
第17回	特定課題研究指導(17)
第18回	特定課題研究指導(18)
第19回	特定課題研究指導(19)
第20回	特定課題研究指導(20)
第21回	特定課題研究指導(21)
第22回	特定課題研究指導(22)
第23回	特定課題研究指導(23)
第24回	特定課題研究指導(24) 特定課題研究指導(24) 特定課題研究指導(24)
第25回	特定課題研究指導(25)
第26回	特定課題研究指導(26)
第27回	特定課題研究指導(27)
第28回	特定課題研究指導(28)
第29回	特定課題研究指導(29)
第30回	特定課題研究指導(30)

授業方法

研究課題の明確性・的確性、方法論の適切性、研究方法・調査方法の妥当性、研究成果の妥当性、研究の新規性、などの観点から特定課題研究の作成に対して指導教員が指導と助言を行う。

準備学習(予習・復習)

準備学習(予習・復習)

各授業回には、相当の特定課題研究の進捗状況を担当教員に提示する必要がある。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

特定課題研究の作成に向けた準備努力と、指導・助言に対する対応を総合的に評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各回の執筆進捗に対して、教員が添削その他の方法により助言・指導を行う。

履修上の注意

本科目は特定課題研究による修了を予定する大学院生のみを対象としており、修士論文を予定する大学院生は本科目は履修できないので注意すること。修士論文を予定する者は、研究指導Ⅰのみ、履修することができる。研究指導Ⅰと研究指導Ⅱを同時に履修することはありえない。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220100201	科目ナンバリング	122F101
講義名	◆経営学文献講読Ⅰ(学部:経営学特殊講義(税務戦略概論)(大学院))		
英文科目名	Readings in ManagementⅠ		
担当者名	金田 直之		
単位	2	配当年次	M1年～2年
時間割	第2学期 月曜日 4時限 東2-101		

授業概要

本年度も、「税金と企業経営」に関する英語文献講読を行い、その後履修者による報告・討議を行う。関連する分野の基礎的な概念を大学院レベルで理解することを目的としている。全ての授業に参加することが期待されている。また、論文作成等をする上で知っておくべき研究倫理も学ぶ。

到達目標

プランニングアプローチの基礎概念を理解する。個人にも法人にも適用可能な基礎的な概念を学び、税金について考慮した上での企業経営の分析力を身に付けることができる。学部簿記入門程度の知識を前提としている。大学院(M)については、企業経営における意思決定を税金を考慮した上で行えるようになる共に、学術研究における研究課題を探究する基礎を修得することを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、担当決定など
第2回	タックスプランニング概論
第3回	租税法について
第4回	貯蓄形態によるリターンの違い
第5回	組織形態によるリターンの違い
第6回	暗黙の税金(IT)、特定の納税者の行動、アービトラージ、および制度上の規制と市場の摩擦
第7回	非租税コストとタックス・プランニング
第8回	限界税率の重要性とダイナミック・タックス・プランニング
第9回	報酬制度とタックスプランニング
第10回	多国籍企業のタックスプランニングー導入と投資判断
第11回	多国籍企業のタックスプランニングー外国税額控除とインカムシフティング
第12回	履修者による報告(1)
第13回	履修者による報告(2)
第14回	プランニングアプローチのトピック
第15回	総括

授業方法

報告者は担当箇所について要約・説明を行う。また、その後の質疑・応答についても中心的役割を担う。報告者は簡単なレジメを作成すること。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当部分を読んでおくこと。(約2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	5 %	
その他(備考欄を参照)	95 %	

成績評価コメント

出席・議論への参加状況・発表などを総合的に評価する。:95%
 大学院生(M)については、研究課題を探究できる基礎ができているか、口頭で試問を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表については授業中にコメントするなどしてフィードバックを行う。

教科書

Taxes and Business Strategy, A Planning Approach,Scholes, Wolfson, Erickson, Maydew and Shevlin,Prentice Hall,Fifth Edition,2015

教科書コメント

上記の洋書(第二版)の翻訳が「税務工学入門」として中央経済社から出版されているが、原書第五版とは異なる部分のあるので注意のこと。教科書以外の文献については適宜指示する。

参考文献コメント

参考文献は適宜指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

参加希望者は、開講日までに当方に連絡すること。なお、他学部他学科、他大学の学生の履修も歓迎する。なお、経営学研究科の学内推薦基準(※)を満たさない学部学生は履修を認められないことがある。 ※経済学部専門科目(専門基礎科目および専門応用科目。ただし演習は含まない。)の総平均点が75点 以上であること。詳細は当方まで相談のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220210201	科目ナンバリング	122F141
講義名	経営科学特殊研究Ⅰ(大学院)		
副題	オペレーションズ&サプライチェーン・マネジメントの基礎		
英文科目名	Special Study: Management ScienceⅠ		
担当者名	河合 亜矢子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 個人研究室		

授業概要

オペレーションズ・マネジメントおよびサプライチェーン・マネジメントに関する外書を履修院生で輪読する。担当部分を決め、事前に発表資料(レジュメとスライド資料)を作成し、当日、報告を行いながら、内容理解のためのディスカッションを行う。

到達目標

博士前期課程は、(1)オペレーションズ・マネジメントおよびサプライチェーン・マネジメントの基礎知識を身に付ける (2)自身が打ち込む研究フィールドに出会う (3)研究を遂行していく上で必要となるモデリング・分析手法のヒントを得る。博士後期課程は(1)に関して、自身の専門分野に落とし込んで理解し、伝えることができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーションと Introduction
第2回	Retail Valuation: How investors value product availability and inventory management
第3回	Assortment Planning: Mining sales data to discover “home run” products you are missing
第4回	Product Life Cycle Planning: How to reinvent forecasting, inventory, optimization, and markdown pricing
第5回	Flexible Supply Chain: How to design for greater agility end to end
第6回	Goal Alignment: Reducing perverse incentive misalignment
第7回	Store-Level Execution: Increasing Sales through better availability of products and store associates
第8回	Technological Risk: How retailers should assess and manage emerging technologies
第9回	Companywide implementation: Managerial issues affecting implementation
第10回	Conclusion: The way forward
第11回	関連文献のレビュー
第12回	担当論文内容の発表とディスカッション(1)
第13回	担当論文内容の発表とディスカッション(2)
第14回	まとめと振り返り
第15回	予備日

授業計画コメント

受講者と相談の結果、授業計画を変更する可能性がある。

授業方法

指示した本の内容に関して履修院生の発表を基に討議と演習問題を行う形で進める。ディスカッションは主に内容の理解を意図して行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業では、指示した本の内容に関する討議で進めるため、履修者は本の担当部分を事前に熟読し、その内容を正確かつ円滑に伝えられるよう十分に準備して出席すること(最低でも5時間は必要)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	担当回の報告
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	トピックへの理解度と発言内容
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程:指定された文献を理解し、内容を分かりやすく伝え、質問に的確に対応することができる
博士後期課程:文献の内容を批判的な視点からも捉え、さらに掘り下げるべき課題について議論することができる

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

その都度、討議や発表の中でコメントしフィードバックを行う

教科書

The New Science of Retailing: How analytics are transforming the supply chain and improving performance, Marshall Fisher and Ananth Raman, Harvard Business Press, 2010, 978-1-4221-1057-7

教科書コメント

まとめて購入するので個人では購入しないこと。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

毎回の授業に全て出席することを原則とする。好奇心と責任感を持って主体的に取り組めることが履修の最低条件

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220211201	科目ナンバリング	122F142
講義名	経営科学特殊研究Ⅱ(大学院)		
副題	オペレーションズ&サプライチェーン・マネジメントの実践		
英文科目名	Special Study: Management Science Ⅱ		
担当者名	河合 亜矢子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 個人研究室		

授業概要

経営科学特殊研究Ⅰで得た幅広い基礎知識の中から、各履修生が選択した特定のトピックを掘り下げ、実践的に学ぶ。まずはそれぞれのトピックに関連するより専門的な文献を読み、理解を深める。この知識を用いて、現実のケース、あるいは自身で構築したモデルの分析を行う。文献によって得た知識を現実問題に適用する一連のプロセスを踏むことにより、より実践的にオペレーションズ・マネジメント、サプライチェーン・マネジメントを学び、“使える”道具として定着させることを目的としている。

到達目標

博士前期課程は、(1)自身が選択したオペレーションズ&サプライチェーン・マネジメントに関する特定のトピックを実践的に理解し、現実問題に適用できるようになる (2)他の履修生の選択したトピックについても理解できる (3)現実の様々な状況に常に問題意識を持ち、経営科学的な手法でアプローチできる。博士後期課程は、(1)(2)について批判的な視点を持って、より良い分析結果を導くための議論ができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	1学期のふり返しおよび概要説明
第2回	研究課題の選定
第3回	トピックのふり返しと参考文献の提案
第4回	個人発表とディスカッション(1)
第5回	個人発表とディスカッション(2)
第6回	研究の方向性についてのレビューと提案
第7回	研究進捗のレビュー(1)
第8回	研究進捗のレビュー(2)
第9回	レポート執筆に関する指導
第10回	研究進捗のレビュー(3)
第11回	発表資料の作成と発表に関する指導
第12回	研究発表とディスカッション1
第13回	研究発表とディスカッション2
第14回	総括
第15回	予備日

授業計画コメント

受講者と相談の結果、授業計画を変更する可能性がある。

授業方法

履修院生それぞれが自身の興味のあるトピックを選択し、その特性に応じた研究方法でトピックを掘り下げて研究・分析結果を発表する。この発表を基にディスカッション行う形で進める。ディスカッションはさらなる問題意識の喚起をと理解を意図しておこなう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業では、報告者の発表内容に関する討議で進めるため、履修者は十分に準備して出席すること(最低でも5時間は必要)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	担当回の報告と期末レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	積極性と発言内容
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程:好奇心を持って取り組めるトピックを特定し、初めて使用するツールなどを実際に使ってアプローチすることができる
博士後期課程:初めて試行する分析手法でアプローチし、既知の手法と分析精度を比較することができる

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

その都度、討議や発表の中でコメントしフィードバックを行う

参考文献コメント

適宜指示する

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

毎回の授業に全て出席することを原則とする。好奇心と責任感を持って主体的に取り組めることが履修の最低条件

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220218201	科目ナンバリング	122F171
講義名	マーケティングサイエンス特殊研究Ⅰ（大学院）		
英文科目名	Special Study: Marketing ScienceⅠ		
担当者名	杉田 善弘		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 金曜日 4時限 中央－502		

授業概要

マーケティング・サイエンスのデータ分析者・研究者を目指す学生を対象に、豊田の「データマイニング入門」を教材にして、マーケティング・サイエンスで用いられるデータマイニングの方法を研究して行きます。

到達目標

博士前期課程の学生は、データマイニングの手法を理解し、データ分析へ応用するための基礎力をつける。博士後期課程の学生は、手法の改良を提案できるだけのより深い理解を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	紹介、事前知識確認
第2回	豊田、1章
第3回	豊田、1章(続き)
第4回	豊田、5章
第5回	豊田、3章
第6回	豊田、3章(続き)
第7回	豊田、6章
第8回	豊田、7章
第9回	豊田、7章(続き)
第10回	豊田、9章
第11回	豊田、9章(続き)
第12回	豊田、2章
第13回	豊田、2章(続き)
第14回	授業のまとめ
第15回	自主研究

授業方法

教科書の各章について報告者を決め、報告者の報告に基づいて、討論をしながら学んでいき、レポートで学習の確認をします。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当箇所を読んでおき、報告・討議ができるようにしておいてください(約60分/週)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポート、平常点(報告を含む)を総合的に考慮して成績を評価します。博士前期の学生については扱った手法の理解度を主に評価し、博士後期の学生はそれに加えて改善すべき点の提案内容も合わせて評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

報告については都度コメントします。

教科書

データマイニング入門,豊田秀樹,東京図書,2008

参考文献コメント

授業で指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。／ 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

統計的検定など推測統計の基礎知識、回帰モデル、因子分析など多変量解析の基礎知識と統計ソフトの知識が事前に必要です。1回目の授業で、事前知識の確認のため試験をします。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220219201	科目ナンバリング	122F172
講義名	マーケティングサイエンス特殊研究Ⅱ(大学院)		
英文科目名	Special Study: Marketing Science Ⅱ		
担当者名	杉田 善弘		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 金曜日 4時限 中央―502		

授業概要

マーケティング・サイエンスのデータ分析者・研究者を目指す学生を対象に、豊田の「共分散構造分析」を教材にして、共分散構造分析のマーケティング・サイエンスへの応用を研究して行きます。

到達目標

博士前期課程の学生は、共分散構造分析を理解し、実際にデータ分析へ応用するための基礎力をつける。博士後期課程の学生は、手法の改良を提案できるだけのより深い理解を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	紹介
第2回	豊田秀樹、共分散構造分析1.1-1.10
第3回	豊田秀樹、共分散構造分析2.1-2.5
第4回	豊田秀樹、共分散構造分析2.6-2.10
第5回	豊田秀樹、共分散構造分析3.1-3.4
第6回	豊田秀樹、共分散構造分析3.5-3.9
第7回	豊田秀樹、共分散構造分析4.1-4.4
第8回	豊田秀樹、共分散構造分析4.5-4.10
第9回	豊田秀樹、共分散構造分析5.1-5.5
第10回	豊田秀樹、共分散構造分析6.1-6.3
第11回	豊田秀樹、共分散構造分析6.4-6.5
第12回	豊田秀樹、共分散構造分析20(応用例1-30)
第13回	豊田秀樹、共分散構造分析20(応用例31-63)
第14回	まとめ
第15回	予備日

授業方法

教科書の各章について報告者を決め、報告者の報告に基づいて、討論をしながら学んでいき、レポートで学習の確認をします。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当箇所を読んでおき、報告・質問などができるようにしておいてください(約60分/週)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	報告を含む
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポート、平常点を総合的に考慮して成績を評価します。博士前期課程の学生については手法の理解度を主に評価し、博士後期課程の学生はそれに加えて改善すべき点の提案内容も合わせて評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

報告については都度授業内でコメントします。

教科書

共分散構造分析,豊田秀樹,東京図書,2014

参考文献コメント

授業で指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。／ 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

統計的検定など推測統計の基礎知識、回帰モデル、因子分析など多変量解析の基礎知識と統計ソフトの知識が事前に必要です。マーケティングサイエンス特殊研究Ⅰは必須ではありませんが、因子分析と統計ソフトRの基礎知識は特に重要です。マーケティングサイエンス特殊研究Ⅰ未受講者には事前知識確認のために試験をすることがあります。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220220101	科目ナンバリング	122F173
講義名	◆マーケティング・リサーチ特殊研究(学部:マーケティング・リサーチ)(大学院)		
英文科目名	Special Study: Marketing Research		
担当者名	藤居 誠		
単位	4	配当年次	M 1年～2年
時間割	通年 水曜日 4時限 西2-202		

授業概要

マーケティングにおけるリサーチの基礎と役割を理解することを目的とします。マーケティングの分野に関わる調査の実施方法や分析手法の解説と習得が講義の中心的な内容となります。
 主な学習内容としては、①マーケティング・リサーチの基礎と役割の理解 ②統計的分析手法の学習と習得 ③PCを利用したデータ解析実習 ④グループ・ワークによるマーケティング・リサーチの企画立案と調査報告です。

到達目標

マーケティングにおけるリサーチの役割を理解し、自らが設定したマーケティング課題に対するリサーチが行えるようになる。
 代表的な多変量解析の手法について学び、自らが統計解析ツールを操作し、データ解析が出来るようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業計画の説明
第2回	イントロダクション1:マーケティング・マネジメントとは何か
第3回	イントロダクション2:マーケティング・リサーチとは何か
第4回	マーケティング・リサーチの方法論(1)
第5回	マーケティング・リサーチの方法論(2)
第6回	マーケティング・リサーチの方法論(3)
第7回	マーケティング・リサーチの方法論(4)
第8回	データ集計と解析:データの「代表値」と「ちらばり」
第9回	データ集計と解析:相関分析
第10回	データ集計と解析:仮説検証①
第11回	データ集計と解析:仮説検証② χ^2 二乗検定
第12回	データ集計と解析:仮説検証③t検定
第13回	データ集計と解析:仮説検証④分散分析
第14回	データ集計と解析:仮説検証⑤
第15回	第1学期の復習と第2学期の授業説明
第16回	マーケティング・リサーチのためのデータ解析①
第17回	マーケティング・リサーチのためのデータ解析②
第18回	マーケティング・リサーチのためのデータ解析③
第19回	マーケティング・リサーチのためのデータ解析④
第20回	マーケティング・リサーチのためのデータ解析⑤
第21回	マーケティング・リサーチのためのデータ解析⑥
第22回	仮説から考えるリサーチデザイン①
第23回	仮説から考えるリサーチデザイン②
第24回	マーケティング・リサーチのためのワークショップ①
第25回	マーケティング・リサーチのためのワークショップ②
第26回	マーケティング・リサーチのためのワークショップ③
第27回	マーケティング・サイエンス・ワークショップ①
第28回	マーケティング・サイエンス・ワークショップ②
第29回	マーケティング・サイエンス・ワークショップ③
第30回	まとめ

授業計画コメント

データ解析にはエクセルの他、SPSSなどデータ解析ツールの利用を予定しています。エクセルやSPSSに不慣れな方でも大丈夫です。操作方法については、適宜解説していきます。
 またマーケティング・リサーチへの理解を深めるため、ワークショップの実施も計画しています。

授業方法

講義形式が中心の授業となりますが、統計的手法のパートについてはPCによる実習、市場調査の演習を行う際にはワークショップや

グループワークも行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業時に配布したレジュメの必要部分は読み返し、疑問点をまとめる。
PCで実習した多変量解析の手法・操作については復習し操作になれておくこと。
発表時に受けたコメントや指摘事項は復習し、資料のブラッシュアップに努める。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

基本的には講義形式の授業になりますが、ワークショップやグループワーク時に限らず、積極的な授業への参加を希望します。大学院生はより高度な学修と成果が求められます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生からのコメントペーパーをもとに、授業への反映や資料配布を行う。
ワークショップやグループワークによる成果物については、都度授業内でコメントを行う

教科書コメント

教科書は指定しません。授業時にレジュメを配布します。

参考文献コメント

参考文献は授業時に適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。(学部生を含め15名程度) / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

本講義では統計解析ツールを利用した演習も計画していますが、統計に関する事前知識は基本的には必要ありません。
必要に応じて一緒に学習していきます。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220222101	科目ナンバリング	122F182
講義名	経営学特殊研究Ⅱ(大学院)		
副題	医療経済学の基礎		
英文科目名	Special Study: Corporate Strategy Ⅱ		
担当者名	遠藤 久夫		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 土曜日 2時限 個人研究室		

授業概要

医療経済学の基本的教科書である The Economics of Health and Health Care を輪読する。後半は英文の医療経済学の論文を輪読する。

到達目標

博士前期課程: 英文で医療経済学の基礎を理解することを目的とする。

博士後期課程: 上記に加え、特定のテーマについてより深く理解することを目的とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	Introduction
第3回	Microeconomic Tools for Health Economics
第4回	Statistical Tools for Health Economics
第5回	Economic Efficiency and Cost-Benefit Analysis
第6回	Production of Health
第7回	The Production, Cost, and Technology of Health Care
第8回	Demand for Health Capital
第9回	Demand and Supply of Health Insurance
第10回	Consumer Choice and Demand
第11回	Asymmetric Information and Agency
第12回	The Organization of Health Insurance Markets
第13回	Managed Care
第14回	Nonprofit Firms
第15回	The Physician's Practice
第16回	Health Care Labor Markets and Professional Training
第17回	The Pharmaceutical Industry
第18回	Equity, Efficiency, and Need
第19回	Government Intervention in Health Care Markets
第20回	Social Insurance
第21回	Comparative Health Care System
第22回	Health System Reform
第23回	The Health Economics of Bads
第24回	医療提供体制に関する論文1
第25回	医療提供体制に関する論文2
第26回	医療提供体制に関する論文3
第27回	医療保険に関する論文1
第28回	医療保険に関する論文2
第29回	医療保険に関する論文3
第30回	医療保険に関する論文4

授業計画コメント

650ページの英文の教科書を輪読し、後半は1回1本の英文論文を読むので受講者の負担は大きい。

授業方法

輪読とディスカッション。受講者は事前に割り当てられた箇所・論文のレジュメ(日本語)を作成し報告する。その後、ディスカッションを行い内容の理解を深める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習:輪読の担当者は教科書の報告部分および論文のレジュメ作成を行う(10時間)。輪読の担当に当たってない受講者は、内容を把握して質問を考える(5～8時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程:英文の教科書、論文の内容を正しく理解できているかが評価のポイント。
博士後期課程:これに加えて、特定のテーマについて深く理解できているかが評価のポイント。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に行われるディスカッションにより課題の解決を図る。

教科書

The Economics of Health and Health Care:International Edition,Sherman Folland, Allen Charles Goodman, Miron Stano ,Routledge,8th Edition,2017

教科書コメント

上記教科書の他に英語論文を用いるが、これは授業時に配布する。

履修上の注意

医療制度を理解し、経済学の基本をマスターしていることを前提とするため、履修者は主として指導院生を対象とする。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220223101	科目ナンバリング	122F183
講義名	◆経営学特殊研究Ⅲ(学部:経営財務Ⅱ)(大学院)		
副題	コーポレート・ファイナンス		
英文科目名	Special Study: Corporate Strategy Ⅲ		
担当者名	徳島 勝幸		
単位	4	配当年次	M 1年～2年
時間割	通年 木曜日 2時限 西2－306		

授業概要

コーポレート・ファイナンス(資本構成、投資戦略、株主還元)に関する基本的な知識を身につけ、企業価値とは何か、企業価値を向上させるために何をなすべきかを学ぶ。また、そのために必須な数学的理解力を深めることを目的とする。平易なテキストを基に基礎的な内容から理解を深めていくように進めるが、現代的な問題も含め広い範囲のトピックスについて触れていきたい。レポート作成に際しては、単なるウェブ上にある情報の切り貼りではなく、個々人が自ら考えて結論を出す訓練になるような課題を予定する(なお、特に履修の前提とする科目はなく、基礎から講義を行う予定である)。

到達目標

NPV法に基づく企業の意思決定理論を十分に理解し、資本調達・投資の両面から企業財務の考え方を理解することができるようになる。企業価値及び経営判断について、学術的なアプローチからの知見を得る。

授業内容

実施回	内容
第1回	ファイナンスと財務担当者
第2回	現在価値、企業の目的とコーポレート・ガバナンス
第3回	現在価値の計算
第4回	債券と株式の価値
第5回	純現在価値が最善の投資決定基準となる理由
第6回	純現在価値ルールによる投資判断
第7回	リスク、リターン、資本コスト入門
第8回	リスクとリターン
第9回	資本支出予算とリスク
第10回	プロジェクトはブラックボックスにあらず
第11回	戦略と資本投資決定
第12回	エージェンシー問題、経営報酬、業績評価
第13回	企業の資金調達と市場の効率性に関する教訓
第14回	企業の資金調達の概要
第15回	理解度の確認
第16回	企業はどのように証券を発行するか
第17回	利益還元政策
第18回	負債政策は重要か
第19回	企業はどれだけ借り入れるべきか
第20回	資金調達と評価
第21回	オプションを理解する
第22回	オプションの価値評価
第23回	国債の評価
第24回	信用リスク
第25回	多様な負債
第26回	リース等
第27回	リスク管理
第28回	国際的なリスク管理
第29回	財務分析と計画
第30回	総括

授業計画コメント

授業内容は予定であり、学生の要望及び環境の変化に応じ、実際に講義を行う中で順序及び内容の変更を行う場合がある。

授業方法

講義形式で授業を進める。また、授業中に適宜、小テストを実施し、問題を解いてもらうことで出欠確認に替える。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習は不要であるが、講義終了後に教科書の該当箇所を読んでおくこと(約30～60分)。
また、疑問や興味のあるトピックについては、参考文献を参照するとともに、関連する時事問題についても理解しておくこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート	30 %	第1学期末
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	講義中に実施する小テストを含む
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学年末試験は講義内容の習熟度を確認するものであり、基本的に持ち込みを可能とする予定。第1学期末のレポートについては、逆に、独自の思考を問うものとする。講義中に随時実施する小テストは出席の確認を兼ねるもので、理解を支援する内容を予定。なお、講義に出席せず、レポート提出・試験だけでは、合格点を与えることはない。
学部生と共通の講義であるが、成績は別個のものとして評価する。大学院生の試験・レポートに関しては、研究者としての要件を満たすことを求める。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

講義中に実施する小テストは、適宜答案を返却し、フィードバックを行う。
第1学期終了後に作成したレポートについては、コメントを付記して返却する。
学年末試験の結果については、G-Portもしくはメール経由で通知する。

教科書

コーポレートファイナンス入門<第2版>,砂川伸幸,日本経済新聞出版社,第2,2017,9784532113681
ざっくり分かるファイナンス,石野雄一,光文社,2007,9784334033972

教科書コメント

講義に関しては、講師作成の資料を主として利用する。教科書を毎回講義に持参する必要はない。

参考文献

コーポレートファイナンス上,ブリーリー・マイヤーズ他,日経BP社,第10,2014,9784822248604
コーポレートファイナンス下,ブリーリー・マイヤーズ他,日経BP社,第10,2014,9784822248611

参考文献コメント

その他の参考文献については、適宜授業中に指示する。

履修上の注意

第1回目の講義に必ず出席すること。出席できなかった場合は、早めに連絡を取ること。
授業に関する連絡事項は、G-Portを経由して行うので注意のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220225201	科目ナンバリング	122F121
講義名	戦略行動特殊研究Ⅰ(大学院)		
英文科目名	Special Study: Strategic BehaviorⅠ		
担当者名	RTISCHEV, Dmitry		
単位	2	配当年次	M1年～2年 / D1年～3年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 東2-103		

授業概要

戦略的行動とは相手の反応を想定しながら自分のアクションを決めていくという行動である。企業同士の取引や競争、企業と消費者の間または企業と従業員の間、そして個人同士と様々なケースはあるが、分析上の共通点が多い。戦略行動を読み解くスキルは商品開発、マーケティング、投資、制度設計などに役立つ。本授業は学術論文やケーススタディを通じて戦略行動の理解を深めるとともに、分析スキルを身に付けることを目標とする。

到達目標

戦略行動を分析するためのスキルを獲得する。博士後期課程の受講者は、シミュレーションによる分析方法も学ぶ。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、基礎概念理解度の確認(診断テスト)
第2回	ケース1(紹介)
第3回	ケース1(分析)
第4回	ケース1(討論)
第5回	ケース2(紹介)
第6回	ケース2(分析)
第7回	ケース2(討論)
第8回	ケース1～2の比較、理解度の確認
第9回	ケース3(紹介)
第10回	ケース3(分析)
第11回	ケース3(討論)
第12回	ケース4(紹介)
第13回	ケース4(分析)
第14回	ケース4(討論)
第15回	総括、フィードバック

授業計画コメント

第一回目の授業では、基礎概念の理解度を確認するため診断テストを実施する。診断テスト内容:①独占企業による価格設定、②ゲームにおける均衡を求める。診断テスト時間:30分

授業方法

学部レベルのゲーム理論とミクロ経済学(またはビジネスエコノミクス)の知識を前提とし、戦略行動が起きる具体例を数理モデルで表して分析する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教材を読んでおくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	20 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士後期課程の受講者は、博士前期課程の受講者より高い基準に基づいて評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に受講者の理解度を確認の上、授業内容に反映させる。

教科書コメント

教材は授業中に適宜指定する。

参考文献

Micromotives and Macrobehavior, Thomas C. Schelling, Norton, 2006, 9780393329469

入門 ゲーム理論と情報の経済学, 神戸伸輔, 日本評論社, 2004, 9784535554146

経営の経済学 Business Economics, 丸山雅祥, 有斐閣, 新版, 2011, 9784641163768

ミクロ経済学 戦略的アプローチ, 梶井厚志、松井彰彦, 日本評論社, 2000, 9784535552029

Strategy and Dynamics in Contests, Kai A. Konrad, Oxford Univ Press, 2009, 9780199549603

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220226201	科目ナンバリング	122F122
講義名	戦略行動特殊研究Ⅱ(大学院)		
英文科目名	Special Study: Strategic Behavior Ⅱ		
担当者名	RTISCHEV, Dmitry		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 火曜日 2時限 東2－103		

授業概要

戦略的行動とは相手の反応を想定しながら自分のアクションを決めていくという行動である。企業同士の取引や競争、企業と消費者の間または企業と従業員の間、そして個人同士と様々なケースはあるが、分析上の共通点が多い。戦略行動を読み解くスキルは商品開発、マーケティング、投資、制度設計などに役立つ。本授業は学術論文やケーススタディを通じて戦略行動の理解を深めるとともに、分析スキルを身に付けることを目標とする。

到達目標

戦略行動を分析するためのスキルを獲得する。博士後期課程の受講者は、シミュレーションによる分析方法も学ぶ。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、基礎概念理解度の確認(診断テスト)
第2回	ケース1(紹介)
第3回	ケース1(分析)
第4回	ケース1(討論)
第5回	ケース2(紹介)
第6回	ケース2(分析)
第7回	ケース2(討論)
第8回	ケース1～2の比較、理解度の確認
第9回	ケース3(紹介)
第10回	ケース3(分析)
第11回	ケース3(討論)
第12回	ケース4(紹介)
第13回	ケース4(分析)
第14回	ケース4(討論)
第15回	総括、フィードバック

授業計画コメント

第一回目の授業では、基礎概念の理解度を確認するため診断テストを実施する。診断テスト内容:①独占企業による価格設定、②ゲームにおける均衡を求める。診断テスト時間:30分

授業方法

学部レベルのゲーム理論とミクロ経済学(またはビジネスエコノミクス)の知識を前提とし、戦略行動が起きる具体例を数理モデルで表して分析する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教材を読んでおくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	20 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士後期課程の受講者は、博士前期課程の受講者より高い基準に基づいて評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に受講者の理解度を確認の上、授業内容に反映させる。

教科書コメント

教材は授業中に適宜指定する。

参考文献

Micromotives and Macrobehavior, Thomas C. Schelling, Norton, 2006, 9780393329469

入門 ゲーム理論と情報の経済学, 神戸伸輔, 日本評論社, 2004, 9784535554146

経営の経済学 Business Economics, 丸山雅祥, 有斐閣, 新版, 2011, 9784641163768

ミクロ経済学 戦略的アプローチ, 梶井厚志、松井彰彦, 日本評論社, 2000, 9784535552029

Strategy and Dynamics in Contests, Kai A. Konrad, Oxford Univ Press, 2009, 9780199549603

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220227201	科目ナンバリング	122F123
講義名	イノベーション特殊研究Ⅰ(大学院)		
英文科目名	Special Study: InnovationⅠ		
担当者名	和田 哲夫		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 金曜日 3時限 東2－103		

授業概要

「イノベーション」という概念には、要素技術研究、製品開発、企業組織構造の革新、長期的な産業構造の変化、など多くの意味が含まれ、それぞれの観点において理論モデル・統計的分析・ケーススタディなど様々な分析手法が適用されてきた。このうち、個別企業の研究開発と知的財産権の活用戦略を考える上で重要な、主に英文の先行研究を学び、その思考枠組みを理解することを目的とする。具体的な各回の講義項目は受講者が目指す研究内容と既修得内容に応じて選択し順序を調整する。

到達目標

博士前期課程の学生は、イノベーションの専門分野において当然理解しておくべき先行研究を学び、応用するための研究基礎力を磨くことを目標とする。 博士後期課程の学生は、イノベーション分野において自立して専門的研究活動を行い、既存の知識体系に対して新規性・進歩性のある独自研究を行うための能力を得ることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	研究開発投入と成果の測定可能性:企業の特許出願や保有特許は研究開発の何を表すか
第2回	産業構造とイノベーションの実証研究:独占的(寡占的)産業は非革新的か
第3回	技術専有手段としての知的財産権:特許取得による技術専有、戦略的デメリット、産業ごとの違い
第4回	ライセンス判断における補完的資産の役割とは
第5回	研究開発の二面性(知識創出と吸収の補完性)とは
第6回	研究開発契約・ライセンス契約に求められる戦略的考慮:オープン・イノベーション
第7回	累積的技術革新と契約
第8回	企業間知識フローの計測
第9回	破壊的技術革新
第10回	アーキテクチャル・イノベーション
第11回	知的財産権の執行:巨額訴訟費用は中小企業にとって不利か
第12回	学術研究機関と産業技術開発:技術開発における大学の役割
第13回	特許獲得競争における均衡
第14回	授業の総括
第15回	理解度の確認

授業方法

主に英文での文献講読。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

課題として与えられた各回の文献を理解し、中心部分(理論では理論体系のコア、実証ではデータの意味付けと検証手法など)を説明できるようになっておくこと(平均約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(各回の文献内容の理解度を主に評価するが、後期課程学生は理解だけでなく既存研究のギャップ指摘と提案までが求められる。) レポート:50%(前期課程学生タームペーパーとしてリサーチ・プロポーザルを予定する。後期課程学生は博士論文プロポーザルまたはそれに準ずる内容を要求する。)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の課題に対して口頭やメール等でコメントや助言を与える。

教科書コメント

初回配布する予定、ただし参加者の基礎知識により調整する。

参考文献

イノベーション・マネジメント入門: マネジメント・テキスト, 一橋大学イノベーション研究センター, 日本経済出版社, 2, 2017
ほとんど無害な計量経済学, J. Angrist & J.S. Pischke, NTT出版, 2013

参考文献コメント

初回配布する予定、ただし参加者の基礎知識により調整する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220229101	科目ナンバリング	122F111
講義名	経営組織論特殊研究		
英文科目名	Special Study: Business Organization		
担当者名	武石 彰		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 木曜日 2時限 個人研究室		

授業概要

この授業は、博士前期、同後期課程の学生が、マクロ組織論およびその周辺・関連領域(とくに戦略論)で学術的な研究を行うための基礎的な知識を修得することを目的とする。当該領域に関する基礎的な学術の文献の輪読を中心に授業を進めていく。

到達目標

マクロ組織論およびその周辺・関連領域(とくに戦略論)でにおいて学術的な研究を行うために必要になる基礎的な理論、枠組みや研究の流れを理解し、当該領域における自らの学術的研究に活用していく能力を身につけることを目標とする。とくに、博士前期課程の学生は、主要な基礎的な理論を理解すること、博士後期課程の学生は、自らの研究領域を中心に主要な理論や実証研究の相互の関係とそれぞれの意義を理解することを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス:授業の概要、進め方の説明。履修者の研究の関心
第2回	基本テキスト第1章:組織と組織理論
第3回	基本テキスト第1章:組織と組織理論
第4回	基本テキスト第2章:戦略、組織設計、有効性
第5回	基本テキスト第2章:戦略、組織設計、有効性
第6回	基本テキスト第3章:組織構造の基本
第7回	基本テキスト第3章:組織構造の基本
第8回	基本テキスト第4章:外部環境と組織の関係
第9回	基本テキスト第4章:外部環境と組織の関係
第10回	基本テキスト第5章:製造業とサービス業の組織
第11回	基本テキスト第5章:製造業とサービス業の組織
第12回	基本テキスト第6章:組織の規模、ライフサイクル、コントロール
第13回	基本テキスト第6章:組織の規模、ライフサイクル、コントロール
第14回	履修者の研究の関心
第15回	予備日
第16回	第2学期ガイダンス、第1学期の総括、履修者の研究の関心
第17回	基本テキスト第7章:組織の文化と倫理的価値観
第18回	基本テキスト第7章:組織の文化と倫理的価値観
第19回	基本テキスト第8章:イノベーションと変革
第20回	基本テキスト第8章:イノベーションと変革
第21回	基本テキスト第9章:意思決定のプロセス
第22回	基本テキスト第9章:意思決定のプロセス
第23回	基本テキスト第10章:コンフリクト、力、そして政治
第24回	基本テキスト第10章:コンフリクト、力、そして政治
第25回	追加文献の輪読
第26回	追加文献の輪読
第27回	追加文献の輪読
第28回	履修者の研究計画とマクロ組織論
第29回	履修者の研究計画とマクロ組織論
第30回	予備日

授業計画コメント

授業の内容、進め方、スケジュールは、履修者の人数を踏まえて、再調整する可能性がある。

授業方法

文献の輪読を中心に進める。授業の進め方の詳細は履修者の人数と関心を踏まえて確定するが、基本テキストの他、履修者の関心を踏まえて追加の文献を選定し、事前に割り当てられた報告者が用意したレジメに基づいて当該論文の内容について報告し、それに基づいて質疑、ディスカッションするという方法をとる予定である。また第二学期の後半では、履修者の研究計画におけるマクロ組

織論の応用についての報告を行ってもらうことを計画している。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

取り上げる文献を事前に精読し、授業に臨むこと。報告担当者は事前に報告用のレジメを用意すること。第二学期の後半では、履修者の研究計画におけるマクロ組織論の応用について報告を行ってもらうことを計画している。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	報告、レジメの内容
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	出席、ディスカッション
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

報告、レジメでは文献の内容を正確に理解、要約、報告しているかを基準にして評価する。ディスカッションでは発言の回数と質(特に討議の主題をめぐって的確な議論ができているかどうか)を評価の基準とする。とくに、博士前期課程の学生は、主要な基礎的な理論を的確に理解できているかどうか、博士後期課程の学生は、主要な理論や実証研究の相互の関係や意義を的確に理解できているかどうかを基準に評価する。研究計画においては、マクロ組織論の応用が的確に位置づけられているかを評価の基準とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

報告、レジメの内容について、必要に応じて、その都度、授業中にコメントする。

教科書

組織の経営学,R.ダフト,ダイヤモンド社,2002,9784478430200

Essentials of Organization Theory and Design 2nd Edition,R. Daft,South-Western College Pub,2nd edition,2000,032402097X

教科書コメント

基本テキストは原著英語版と邦訳版がある。邦訳版で授業を進める予定であるが、履修者が希望する場合には、英語版を用いてもよい。

参考文献コメント

その他の参考文献については授業の中で指示する。

履修上の注意

初回の授業に必ず出席すること。もしやむをえない事情で出席できない場合には、初回の授業の前にメールなどで担当教員に必ず連絡すること。

その他

担当教員と連絡を取りたい時には、大学のメールアドレスにメールを送ること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220230101	科目ナンバリング	122F112
講義名	組織行動論特殊研究(大学院)		
英文科目名	Special Study: Organizational Behavior		
担当者名	竹内 倫和		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 月曜日 1時限 個人研究室		

授業概要

本講義では、組織(企業)で働く従業員の態度や行動のメカニズムについて、心理学的視点をもとに理解することを目的としています。組織行動論は、行動科学(behavioral science)や産業・組織心理学(industrial and organizational psychology)の知見を踏まえ、学問的には体系化が試みられてきていますが、欧米の経営系の大学院を中心に、必須の科目としてその重要性が指摘されています。また、近接する領域として人的資源管理論が挙げられ、組織行動論の知見をもとに、企業の人材マネジメントを考えることも重要です。本講義では、国内外の文献や研究を用い、組織行動論の重要なトピックや概念について検討していきます。

到達目標

博士前期課程の学生は、組織行動論の基礎的理論や概念について適切に理解し、説明できることを目標とする。 博士後期課程の学生は、組織行動論の理論や概念をもとに、どのように企業経営の現象を説明できるかを考えられるようになることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:本講義の進め方、方針
第2回	組織行動論の歴史
第3回	パーソナリティ(1):パーソナリティ理論
第4回	パーソナリティ(2):実証研究論文の発表
第5回	モチベーション(1):内容理論と過程理論
第6回	モチベーション(2):実証研究論文の発表
第7回	組織社会化(1):予期的社会化と組織内社会化
第8回	組織社会化(2):実証研究論文の発表
第9回	組織コミットメント(1):組織コミットメント概念
第10回	組織コミットメント(2):組織コミットメントの規定・結果変数
第11回	組織コミットメント(3):実証研究論文の発表
第12回	コミュニケーション(1):組織とコミュニケーション
第13回	コミュニケーション(2):実証研究論文の発表
第14回	リーダーシップ(1):古典的理論
第15回	リーダーシップ(2):変革型リーダーシップ理論
第16回	リーダーシップ(3):実証研究論文の発表(1)
第17回	リーダーシップ(4):実証研究論文の発表(2)
第18回	人的資源管理施策(1):人材マネジメントの基本的考え方
第19回	人的資源管理施策(2):戦略的人的資源管理論
第20回	人的資源管理施策(3):実証研究論文の発表
第21回	キャリア論(1):古典的キャリア発達理論と新しいキャリア概念
第22回	キャリア論(2):実証研究論文の発表
第23回	組織ストレス(1):ストレス理論
第24回	組織ストレス(2):実証研究論文の発表
第25回	仕事と家庭生活(1):ファミリーフレンドリー施策
第26回	仕事と家庭生活(2):実証研究論文の発表
第27回	人事アセスメント(1):各種アセスメント理論
第28回	人事アセスメント(2):採用選考と教育研修
第29回	人事アセスメント(3):実証研究論文の発表
第30回	講義のまとめ

授業方法

演習形式(学生による発表と講義)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前のテキスト及び英語論文(実証研究)を読み、発表準備をしてくること(約15時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)	90 %	毎回の発表内容に基づく評価

成績評価コメント

初回授業時に詳細を説明します。

博士前期課程の学生は、組織行動論の基礎理論や概念理解を評価のポイントにする。博士後期課程の学生は、組織行動論の理論や概念の実践への応用力を評価のポイントにする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各課題の重要なポイントは、授業内で説明を行う。

教科書

経営組織心理学,若林満監修 松原敏浩・渡辺直登・城戸康彰編,ナカニシヤ出版,2008

教科書コメント

適宜、使用する研究論文を提示します。 詳細は初回授業時に説明します。

参考文献

増補改訂版 産業・組織心理学エッセンシャルズ,外島裕・田中堅一郎,増補改訂版,2004

Essentials of Organizational Behavior,Stephen P. Robbins & Timothy A. Judge.,Pearson Education,Global Edition of 10th revised Edition,2009

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

組織行動論に関する研究を理解するためには、統計学の知識がとても必要になります。したがって、履修にあたり、統計学の知識について理解している(あるいは、理解しようという意欲が高い)ことが望ましい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220231201	科目ナンバリング	122F113
講義名	企業論特殊研究Ⅰ（大学院）		
副題	コーポレートガバナンスの経済分析Ⅰ		
英文科目名	Special Study: Theory of Business BehaviorⅠ		
担当者名	小山 明宏		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 水曜日 3時限 東2－104		

授業概要

コーポレート・ガバナンスに関する経営学的な議論は、一時に比べて下火だが、それは、この問題が重要ではない、あるいはすでに解決されている、などということを意味するものではない。現在では、アングロサクソン型、ドイツ型、日本型の、それぞれコーポレート・ガバナンス・システムが代表的とされるが、この授業では、それらを経済学的に比較することを目的としている。ただし、そのために、このテーマでの新制度派経済学のフレームワークによる分析の勉強も、行うことにしている。すなわち、エージェンシー理論を中心に、モデル分析の勉強も計画している。

到達目標

コーポレート・ガバナンスの経済分析の基本的知識が取得できることを目指す。博士前期課程の学生は欧文配布資料の内容が理解できること、博士後期課程の学生は、その資料に基づいた議論ができることを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	全体の展望
第2回	コーポレート・ガバナンスとは何か
第3回	コーポレート・ガバナンスの国際比較－入門
第4回	コーポレート・ガバナンスの国際比較－応用
第5回	新制度派経済学－入門
第6回	新制度派経済学－応用
第7回	エージェンシー理論－入門
第8回	エージェンシー理論－応用
第9回	コーポレート・ガバナンス・コードについて－入門
第10回	コーポレート・ガバナンス・コードについて－応用
第11回	ドイツ・コーポレート・ガバナンス・コード－入門
第12回	ドイツ・コーポレート・ガバナンス・コード－応用
第13回	我が国のトップ・マネジメント組織－入門
第14回	我が国のトップ・マネジメント組織－応用
第15回	まとめ

授業計画コメント

コーポレート・ガバナンスの詳細な研究に関しては、英語文献、ドイツ語文献の参照が不可欠となるが、それらについては、受講者に読ませるのではなく、原文を配布しつつ、担当者が説明する、というかたちをとろうと思っている。

授業方法

講義要綱に従って、講義を行う。参加者は常に問題意識を持ち、講義内容に関する議論に参加できるように。前述の通り、コーポレート・ガバナンスの詳細な研究に関しては、英語文献、ドイツ語文献の参照が不可欠となるが、それらについては、受講者に読ませるのではなく、原文を配布しつつ、担当者が説明する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、次回のテーマを指定するので、参考文献のその部分を予習してもらう。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(毎回の議論への参加。)議論への参加および学期中と学期末のレポートによる。レポート:50%(中間と最終課題のレポートを課す)。博士前期課程の学生は欧文配布資料の内容が理解できること、博士後期課

程の学生は、その資料に基づいた議論ができることで評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に受講者の理解度を確認の上、授業内容に反映させる。

教科書

コーポレート・ガバナンスの日独比較, 小山 明宏, 白桃書房, 2008, 9784561264811

参考文献

経営財務論[新訂第五版], 小山 明宏, 創成社, 2019

新制度派経済学による組織入門―市場・組織・組織間関係へのアプローチ, アーノルド ピコー、エゴン フランク、ヘルムート ディートル, 白桃書房, 2007

履修上の注意

履修者数制限あり。(10名) / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

講義の途中での参加学生とのコミュニケーションを重視したいと思っている。間違っている、ともかく発言することが大切で、これをプラス点にカウントしている。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220232201	科目ナンバリング	122F114
講義名	企業論特殊研究Ⅱ（大学院）		
副題	コーポレートガバナンスの経済分析Ⅱ		
英文科目名	Special Study: Theory of Business Behavior Ⅱ		
担当者名	小山 明宏		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 水曜日 4時限 西1－109		

授業概要

コーポレート・ガバナンスに関する経営学的な議論は、一時に比べて下火だが、それは、この問題が重要ではない、あるいはすでに解決されている、などということを意味するものではない。現在では、アングロサクソン型、ドイツ型、日本型の、それぞれコーポレート・ガバナンス・システムが代表的とされるが、この授業では、それらを経済学的に比較することを目的としている。ただし、そのために、このテーマでの新制度派経済学のフレームワークによる分析の勉強も、行うことにしている。すなわち、エージェンシー理論を中心に、モデル分析の勉強も計画している。

到達目標

企業論特殊研究Ⅰで勉強した知識に基づき、コーポレート・ガバナンスの経済分析の実例を学ぶ。各国のコーポレート・ガバナンス・システムの具体例の分析である。博士前期課程の学生は欧文配布資料の内容が理解できること、博士後期課程の学生は、その資料に基づいた議論ができることを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	全体の展望
第2回	我が国の企業に関する事例－入門
第3回	我が国の企業に関する事例－応用
第4回	ドイツの株式会社とトップ・マネジメント組織－入門
第5回	ドイツの株式会社とトップ・マネジメント組織－応用
第6回	ドイツの共同決定制度－入門
第7回	ドイツの共同決定制度－応用
第8回	ドイツの企業に関する事例－入門
第9回	ドイツの企業に関する事例－応用
第10回	望ましいコーポレート・ガバナンス・システムとは何か－入門
第11回	望ましいコーポレート・ガバナンス・システムとは何か－応用
第12回	良いコーポレート・ガバナンス・システムと企業業績－入門
第13回	良いコーポレート・ガバナンス・システムと企業業績－応用
第14回	事例研究
第15回	まとめ

授業計画コメント

コーポレート・ガバナンスの詳細な研究に関しては、英語文献、ドイツ語文献の参照が不可欠となるが、それらについては、受講者に読ませるのではなく、原文を配布しつつ、担当者が説明する、というかたちをとろうと思っている。

授業方法

講義要綱に従って、講義を行う。参加者は常に問題意識を持ち、講義内容に関する議論に参加できるように。前述の通り、コーポレート・ガバナンスの詳細な研究に関しては、英語文献、ドイツ語文献の参照が不可欠となるが、それらについては、受講者に読ませるのではなく、原文を配布しつつ、担当者が説明する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、次のテーマを指示するので、参考文献にあたり、予習してきてもらう。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等) :50%(議論への参加。) 議論への参加と学期中と学期末のレポートによる。レポート:

50%(中間と最終レポート)。博士前期課程の学生は欧文配布資料の内容が理解できること、博士後期課程の学生は、その資料に基づいた議論ができることで評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に受講者の理解度を確認の上、授業内容に反映させる。

教科書

コーポレート・ガバナンスの日独比較, 小山 明宏, 白桃書房, 2008, 9784561264811

参考文献

経営財務論[新訂第五版], 小山 明宏, 創成社, 2019

新制度派経済学による組織入門―市場・組織・組織間関係へのアプローチ, アーノルド ピコー、エゴン フランク、ヘルムート ディートル, 白桃書房, 2007

履修上の注意

履修者数制限あり。(10名) / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

講義の途中での参加学生とのコミュニケーションを重視したいと思っている。間違っている、ともかく発言することが大切で、これをプラス点にカウントしている。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220235201	科目ナンバリング	122F185
講義名	産業発展論特殊研究Ⅰ(大学院)		
英文科目名	Special Study: Industrial DevelopmentⅠ		
担当者名	渡邊 真理子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 木曜日 3時限 東2－702		

授業概要

企業の戦略の経済分析に関する学習および文献購読を行う。具体的には、プラットフォームの戦略、ユーザーイノベーション、実証産業組織論の論文を輪読し、企業の戦略や政策の影響を計量的に評価する方法を学ぶ。おもに需要構造の推定とその応用、市場への参入に関する論文を紹介する。できれば、実際のデータを使って、こうした推定方法を再現するかたちで、学ぶことを考えている。

到達目標

企業戦略を経済学的に評価する手法を学ぶ。経済理論および計量経済学的分析評価する手法を学ぶ。前期課程の学生は、基本的な分析手法を身に着けることを目標とする。後期課程の学生については、自分自身の問題設定に適合した計量分析の手法を選択し、当てはめ、分析する力を身に着けることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクションおよび興味
第2回	実証産業組織論の手法の概観
第3回	需要関数の推定とその応用 推定手法の概観 Rasmusen(2011) Berry &Haile(2016) Gandi& Houde(2017,18)
第4回	需要推定、供給推定を用いた企業戦略の推定(1)Berry (1994) Petrin()
第5回	需要推定、供給推定を用いた企業戦略の推定(2)Nevo(2001)、Michel and Wergraber(2018)
第6回	需要推定、供給推定を用いた企業戦略の推定(3)Akerberg and Rysman (2002)
第7回	イノベーションの成果の定量化(1) Petrin(2002)
第8回	イノベーションの成果の定量化(2) Nevo(2002)
第9回	プラットフォーム、補完財の効果の推計 Rysman (2004) Affelt, Aggentesi, Filstrucchi(2019)
第10回	市場競争とイノベーションにかかわる動学的推計 Igami(2011)
第11回	学生の推計演習結果の発表(1)
第12回	学生の推計演習結果の発表(2)
第13回	学生の推計演習結果の発表(3)
第14回	学生の推計演習結果の発表(4)
第15回	理解度の確認とディスカッション

授業計画コメント

需要と供給の推定を行う構造推定の手法を学ぶ

授業方法

以上に挙げた論文を中心に担当を決め、輪読し、議論をする。また実際にデータをあつかって、推定を再現することも行う。

準備学習(予習・復習)

授業中に指示をする

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50% 前期課程学生については、基本的な理論や概念の知識の蓄積を優先し、その習熟度を評価の対象とする。後期課程学生については、基本的な理論、概念と自分の研究テーマの間の設定を適切に行い表現できているかを評価の対象とする。提出物:50%(学生がデータを使った実証を再現するレポートの提出を求める。)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に受講者の理解度を確認の上、授業内容に反映させる。

参考文献

イノベーションのジレンマの経済学的解明,伊神満,日経BP社,2018,10: 453555756X

計量経済学の第一歩 -- 実証分析のススメ: (有斐閣ストゥディア), 田中隆一, 有斐閣, 978-4641150287

参考文献コメント

適宜指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220236201	科目ナンバリング	122F186
講義名	産業発展論特殊研究Ⅱ(大学院)		
英文科目名	Special Study: Industrial Development Ⅱ		
担当者名	渡邊 真理子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 個人研究室		

授業概要

ミクロ経済学とビジネスエコノミクスの考え方を身につける。テキストとして、レビット その他『ミクロ経済学』と丸山雅祥『経営の経済学』を設定するが、受講者が既習の場合は、Belleframe and Peitzその他をテキストとする。

到達目標

企業の戦略、産業の発展の経路を、経済学の手法を用いて理解し、表現できるようにする。前期課程の学生は、テキストで紹介される問題を適切に解答できるようになることを目標とする。後期課程の学生は、自身の問題を、ミクロ経済学の枠組みに設定したうえで、適切に解を導き出すことができるようになることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション メンバーの興味のある分野を明らかに輪読文献を確定する。さらに輪読分担の確定
第2回	文献輪読(レビット ミクロ経済学 発展編 第9章 市場支配力と独占)
第3回	文献輪読(レビット ミクロ経済学 発展編 第10章 市場支配力と価格戦略)
第4回	文献輪読(レビット ミクロ経済学 発展編 第11章 不完全競争)
第5回	文献輪読(レビット ミクロ経済学 発展編 第12章 ゲーム理論)
第6回	文献輪読(丸山 経営の経済学第3版 第2章 需要の特性)
第7回	文献輪読(丸山 経営の経済学第3版 第3章 費用の特性)
第8回	文献輪読(丸山 経営の経済学第3版 第8章 価格戦略)
第9回	文献輪読(丸山 経営の経済学第3版 第9章 製品戦略)
第10回	文献輪読(丸山 経営の経済学第3版 第10章 流通)
第11回	文献輪読(丸山 経営の経済学第3版 第11章 サプライチェーン)
第12回	文献輪読(丸山 経営の経済学第3版 第12章 プラットフォーム)
第13回	履修生による報告(輪読文献(1)と自分の研究計画の関係性を理解する)
第14回	履修生による報告(輪読文献(2)と自分の研究計画の関係性を理解する)
第15回	理解度の確認

授業方法

演習方式によるテキストと論文の輪読

準備学習(予習・復習)

授業中に指示する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(発表内容に基づき評価を行う。)前期課程学生については、基本的な理論や概念の知識の蓄積を優先し、その習熟度を評価の対象とする。後期課程学生については、基本的な理論、概念と自分の研究テーマの間の設定を適切に行い表現できているかを評価の対象とする。提出物:50%(学生のレポートの提出を求める。)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に受講者の理解度を確認の上、授業内容に反映させる。

教科書

レヴィット ミクロ経済学 基礎編,スティーヴン・レヴィット著／オースタン・グルーズビー著／チャド・サイヴァーソン著,東洋経済新報社,9784492314951

経営の経済学 第3版,丸山雅祥,有斐閣,978-4641164956

教科書コメント

適宜指示します。

参考文献コメント

適宜指示します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220240101	科目ナンバリング	122F115
講義名	経営労務論特殊研究(大学院)		
英文科目名	Special Study: Personnel Management		
担当者名	守島 基博		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 月曜日 6時限 個人研究室		

授業概要

本講義は、学問としての人的資源管理論(Human Resrouce Management)の基礎的な理論と実証研究を理解してもらい、将来この分野で研究を行うための基盤を学ぶための授業である。HRMはこれまで実践的(実務に応用できることを目指す)学問領域として、人事制度の記述および制度が果たす機能の描写に力点が置かれてきた。研究としては、産業組織心理学、組織論、人事経済学などの理論を利用しながら、実証研究がなされてきている。また最近では、わずかだが、HRM独自の理論に基づいた研究も見られるようになってきている。この授業では、こうした発展を追いながら、HRMの枠組みや概念に関する基本的な文献を読み、実証研究の方法論を学習することで、いずれは自らがそうした研究ができるようになる準備をする。そのため、可能な限り、参加者自身が行っている研究の内容についても発表を求める予定である。

到達目標

- ・博士前期課程の学生は、HRM論の基礎的理論や概念を習得し、理解できることを目標とする。
- ・博士後期課程の学生は、HRM論の理論や概念を理解し、実証研究を進めることができることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス:この授業の進め方
第2回	人的資源管理の基礎(前半)
第3回	人的資源管理の基礎(後半)
第4回	ミクロHRMとマクロHRM
第5回	戦略的人的資源管理の基礎:Vertical Fitに関する理論研究
第6回	戦略的人的資源管理の基礎:Vertical Fitに関する実証研究その1
第7回	戦略的人的資源管理の基礎:Vertical Fitに関する実証研究その2
第8回	戦略的人的資源管理の基礎:制度的補完性に関する理論研究
第9回	戦略的人的資源管理の基礎:制度的補完性に関する実証研究その1
第10回	戦略的人的資源管理の基礎:制度的補完性に関する実証研究その2
第11回	戦略的人的資源管理の基礎:Human Capital論に関する理論研究
第12回	戦略的人的資源管理の基礎:Human Capital論に関する実証研究その1
第13回	戦略的人的資源管理の基礎:Human Capital論に関する実証研究その2
第14回	前期のまとめ
第15回	予備日
第16回	HRMとモチベーションに関する理論研究
第17回	HRMとモチベーションに関する実証研究
第18回	HRMと公平性に関する理論研究
第19回	HRMと公平性に関する実証研究
第20回	人材育成・キャリア開発に関する理論研究
第21回	人材育成・キャリア開発に関する実証研究(経済学的アプローチ)
第22回	人材育成・キャリア開発に関する実証研究(心理学的アプローチ)
第23回	HRMと創造性に関する理論研究
第24回	HRMと創造性に関する実証研究その1
第25回	HRMと創造性に関する実証研究その2
第26回	受講生の研究発表その1
第27回	受講生の研究発表その2
第28回	受講生の研究発表その3
第29回	受講生の研究発表その4
第30回	全体のまとめ

授業計画コメント

- ・ほぼすべてのテーマが導入とそのテーマに関する実証研究の組み合わせになっており、読み物は全て英語である。
- ・当日発表にあたった人は詳しいレジュメ(論文の要約)を用意し、クラス全体に対し発表をする。その他の人は該当論文を読んできて、簡単なレジュメを提出するとともに、クラスディスカッションに参加する。

- ・履修にあたり、統計学の知識がある(あるいは、統計学を学習する意欲が高い)ことが期待される。
- ・実証研究の多くを理解するためには、統計学の知識が重要です。したがって、履修にあたり、統計学の知識について理解している(あるいは、理解しようという意欲が高い)ことを期待します。

授業方法

演習とディスカッションで行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・事前のテキストおよび実証研究(ともに英語)を読み、発表準備をしてくること(発表の時は、週約20時間、そうでないときは週約15時間程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	毎回提出してもらう英文論文のレジюмеの評価
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	担当する英文論文に関する発表資料と口頭発表の評価
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

- ・博士前期課程の学生は、HRMの基礎理論や概念理解が評価ポイント
- ・博士後期課程の学生は、理解した概念や理論、方法を使って、自らの研究計画を立てられるかが評価ポイント

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・毎週の授業で論文の理解度、ディスカッションへの積極的な参加、自己の研究への反映などについてフィードバックを行う。

教科書

初回の授業で説明する。

参考文献

『人事管理 人と企業、ともに生きるために』:有斐閣ストゥディア,平野光俊・江夏幾多郎,有斐閣,初,2018,4641150478
『人材マネジメント入門』:日経文庫,守島基博,日本経済新聞出版社,初,2004,4532110017

参考文献コメント

人的資源管理について基礎的な知識が無い学生は、上記を読むこと。

履修上の注意

生活のなかで、この授業が最も重要であるという覚悟で履修すること。

その他

連絡はメールで行うこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220241201	科目ナンバリング	122F161
講義名	◆経営財務論特殊研究Ⅰ(学部:外国書講読(ドイツの企業経営))(大学院)		
副題	Studium der BWL auf deutsch		
英文科目名	Special Study: Financial ManagementⅠ		
担当者名	小山 明宏		
単位	2	配当年次	M1年～2年
時間割	第1学期 金曜日 4時限 東2-104		

授業概要

経営財務の勉強を、ドイツ語資料により行う。

到達目標

ドイツ語のインターネットの経済経営記事を、読めるようになることを目指す。博士前期課程の学生は欧文配布資料の内容が十分に理解できることを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(ドイツ語の話、企業経営の話)
第2回	教材全体の解説
第3回	ドイツ語による企業経営教材の講読1
第4回	ドイツ語による企業経営教材の講読2
第5回	ドイツ語による企業経営教材の講読3
第6回	ドイツ語による企業経営教材の講読4
第7回	ドイツ語による企業経営教材の講読5
第8回	ドイツ語による企業経営教材の講読6
第9回	ドイツ語による企業経営教材の講読7
第10回	ドイツ語による企業経営教材の講読8
第11回	ドイツ語による企業経営教材の講読9
第12回	ドイツ語による企業経営教材の講読10
第13回	ドイツ語による企業経営教材の講読11
第14回	ドイツ語による企業経営教材の講読12
第15回	まとめ

授業方法

最初は、その場で指名しながら一文ずつ読み、内容の解説を行う。ある程度慣れてきたら、分担を決めて順番に読んで行くことにする。ドイツ語を読むのと同時に、日本語によるその経営学的内容の解説を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語による経営学の勉強である。ドイツ語さえ読めれば、最初は経営学の知識は必要ない。授業中に日本語とドイツ語での経営学用語を説明していくので勉強していただきたい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(議論への参加。)議論への参加と学期中と学期末のレポートによる。レポート:50%(中間と最終レポート)。博士前期課程の学生は欧文配布資料の内容が理解できることで評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に受講者の理解度を確認の上、授業内容に反映させる。

教科書コメント

インターネットのドイツ語経済記事を読む予定です。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

ドイツ語で経営学・企業経営について勉強しようという熱意を持った学生を歓迎します。担当者はドイツの大学(バイロイト大学経営学科)で正教授としてドイツ語で「日本的経営」をドイツ人学生たちに教えた経験から、是非それを伝えたいと思っています。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220242201	科目ナンバリング	122F162
講義名	◆経営財務論特殊研究Ⅱ(学部:外国書講読(ドイツの企業経営と国際経営))(大学院)		
副題	Internationales Management		
英文科目名	Special Study: Financial Management Ⅱ		
担当者名	小山 明宏		
単位	2	配当年次	M 1年～2年
時間割	第2学期 金曜日 4時限 東2－104		

授業概要

第1学期は、身近なテーマを題材に、ドイツ語によって経営学を勉強した。第2学期は、その知識をもとに、国際経営入門の勉強にあたる。

到達目標

ドイツ語のインターネットの経済・経営記事を十分に読めるようになることを目指す。博士前期課程の学生は欧文配布資料の内容が十分に理解できることを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	第2学期の目的と授業内容の解説
第2回	教材の説明、特に、内容全体の概略
第3回	ドイツ語による国際経営教材の講読1
第4回	ドイツ語による国際経営教材の講読2
第5回	ドイツ語による国際経営教材の講読3
第6回	ドイツ語による国際経営教材の講読4
第7回	ドイツ語による国際経営教材の講読5
第8回	ドイツ語による国際経営教材の講読6
第9回	ドイツ語による国際経営教材の講読7
第10回	ドイツ語による国際経営教材の講読8
第11回	ドイツ語による国際経営教材の講読9
第12回	ドイツ語による国際経営教材の講読10
第13回	ドイツ語による国際経営教材の講読11
第14回	ドイツ語による国際経営教材の講読12
第15回	まとめ

授業方法

最初は、その場で指名しながら一文ずつ読み、内容の解説を行う。ある程度慣れてきたら、分担を決めて順番に読んで行くことにする。ドイツ語を読むのと同時に、日本語によるその経営学的内容の解説を行う。なお、第1学期と同じ進め方なので、勉強しやすいと思う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に指定された資料を読み、発表してもらう。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(議論への参加。)議論への参加と学期中と学期末のレポートによる。レポート:50%(中間と最終レポート)。博士前期課程の学生は欧文配布資料の内容が理解できることで評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に受講者の理解度を確認の上、授業内容に反映させる。

教科書コメント

参加者の理解の程度に合わせて教材を選び、授業で指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に連絡することとする。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220246101	科目ナンバリング	122F177
講義名	◆消費者行動特殊研究Ⅰ(学部:経営学特殊講義(現代消費論))(大学院)		
副題	現代消費社会の構造変化を読み解く		
英文科目名	Special Study: Consumer BehaviorⅠ		
担当者名	青木 幸弘		
単位	4	配当年次	M1年～2年
時間割	通年 火曜日 1時限 西2-201		

授業概要

この講義では、消費をめぐる様々な現象について、その歴史的な背景を含めて、多面的且つ構造的に理解するための視点と枠組みを提供する。加えて、求められる企業の対応(特に、マーケティング戦略上の対応)について検討していく。具体的には、まず第1学期に、現代消費社会の断面を幾つかの視点から切り取り、その特徴を整理した上で、消費主体の変化、消費プロセスの変容について検討していく。続く第2学期では、戦後日本の消費の歴史を経時的に概観し、今日に至る流れを理解した上で、消費を巡る最近の変化について議論する。尚、折に触れて、直近の消費実態や企業のマーケティング事例についても、紹介していく予定である。尚、この科目は、学部学生も受講することができる大学院科目であるが、到達目標および成績評価方法は、課程によって異なる。

到達目標

学部学生については、現代消費社会における様々な要因連鎖を体系的に理解し、マーケティング戦略上の対応を考える上での基本的な分析視角を身につける。加えて、博士前期課程の学生の場合は、各領域において重要となる論点や研究課題が指摘できるようにする。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:授業概要と全体のプレビュー
第2回	現代日本の消費の諸相(1):消費主体を取り巻く環境要因の変化
第3回	現代日本の消費の諸相(2):情報メディア環境の変化と消費
第4回	現代日本の消費の諸相(3):流通(買物)環境の変化と消費
第5回	現代日本の消費の諸相(4):人口構造の変化と消費
第6回	現代日本の消費の諸相(5):経験価値とコト消費
第7回	現代日本の消費の諸相(6):シェアリング・エコノミーの台頭
第8回	消費主体の変化とその影響(1):家族の変化と消費
第9回	消費主体の変化とその影響(2):家計の変化と消費
第10回	消費主体の変化とその影響(3):ライフサイクルの長期化と消費
第11回	消費主体の変化とその影響(4):多様化するライフコースと消費
第12回	消費主体の変化とその影響(5):家事の外部化と消費
第13回	消費主体の変化とその影響(6):価値意識の変化と消費
第14回	消費主体の変化とその影響(7):「世代論」「若者論」再考
第15回	振り返り
第16回	戦後日本の消費の歴史(1):消費の戦後史を振り返る
第17回	戦後日本の消費の歴史(2):三種の神器と消費革命
第18回	戦後日本の消費の歴史(3):テレビの登場とその影響
第19回	戦後日本の消費の歴史(4):住宅・キッチンの変化と消費
第20回	戦後日本の消費の歴史(5):流通革命とその影響
第21回	戦後日本の消費の歴史(6):コンビニ、ファミレス、宅配便の登場
第22回	戦後日本の消費の歴史(7):バブルの発生と崩壊
第23回	戦後日本の消費の歴史(8):格差拡大と中間層の解体
第24回	戦後日本の消費の歴史(9):インターネットの登場とその発展
第25回	消費を巡る新たな変化(1):コンビニの進化と消費
第26回	消費を巡る新たな変化(2):メディアの進化と消費
第27回	消費を巡る新たな変化(3):ネットとリアルの融合
第28回	消費を巡る新たな変化(4):B2CからC2Cへ
第29回	消費を巡る新たな変化(5):新たな価値意識の台頭
第30回	到達度の確認

授業方法

出来得る限り、わが国における消費の実態(その歴史と直近の動向を含む)を多面的に理解してもらうために、映像資料を含む様々

な資料を多用する。また、コメント・ペーパーを用いて、毎回の授業内容に関する理解度を確認しつつ、できる限り双方向での授業を行っていく。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回配布する講義内容のプリントや関連資料に目を通した上で出席し(予習30分)、また、講義を受けての気づきや疑問、重要と思うポイントをコメント・ペーパーにまとめ、毎回、manaba(ラーニング・ポートフォリオ・システム)によって提出すること(復習1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート	20 %	各学期末にmanabaにより提出(10%×2)
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	manabaによるコメント・ペーパーの提出(毎回)
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポート20%(各学期末にレポートを課す。学部学生に対しては、授業内容を十分に踏まえた上で、必要且つ十分な資料を収集し議論を展開することが求められる。加えて、博士前期課程の院生に対しては、独自の視点から更なる研究課題を指摘することが求められる。コメント・ペーパー50%(学部学生に対しては、コメント・ペーパーにより各回の授業内容の理解度を確認する。加えて、博士前期課程の院生に対しては、当該分野に関して重要となる論点の指摘が求められる)。更に、学年末試験においては、基礎的・基本的な概念や分析枠組みが十分に理解できているかについて確認する(学部学生・博士前期課程院生共通)。毎回の授業内容に関してコメント・ペーパーにより意見・疑問等を求め、次回の授業の冒頭においてフィードバックする。従って、毎回の授業に最初から参加することが重要である。また、レポートについては、授業内容を十分に踏まえているか、必要な資料を収集しているか、独自の視点で分析しているか、などの点を重視し採点する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中およびmanaba(ラーニング・ポートフォリオ・システム)によりフィードバックする。

教科書コメント

教科書は用いず、毎回、プリントを配布する。また、適宜、参考文献を紹介する。

参考文献

ライフコース・マーケティング,青木幸弘+女性のライフコース研究会,日本経済新聞出版社,2008,9784641124639

消費者行動の知識,青木幸弘,日本経済新聞出版社,2010,9784532112226

参考文献コメント

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

①本講義は大学院(経営学研究科)の授業科目であることから、学部学生が受講する場合には、経営学科の専門基礎科目「マーケティング」および「消費者行動」の単位を修得していることを前提とする。尚、大学院進学に関する経営学研究科の学内推薦基準を満たさない学部学生については、履修が認められない場合がある(ここで言う学内推薦基準とは、『経済学部専門教育科目(専門基礎科目および専門応用科目。但し、演習は含まず)の総平均点が75点以上であること』を指す)。②ICカード・リーダーを用いた毎回の出席確認、manabaによる毎回のコメント・ペーパーの提出、responを用いた授業中アンケートを行う(詳しくは、第1回の授業で説明する)。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220248101	科目ナンバリング	122F163
講義名	会計学特殊研究(大学院)		
副題	企業会計に関する研究		
英文科目名	Special Study: Accounting		
担当者名	勝尾 裕子		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 金曜日 5時限 東2－702		

授業概要

企業会計に関する応用的な問題を取り扱う。

到達目標

博士前期課程の学生は、企業会計の分野における研究に必要な基礎力を身に付けることを目標とする。博士後期課程の学生は、企業会計の分野においてより高度な水準の専門的な研究を行うための分析力等を身に付けることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション、論文作成上の研究倫理
第2回	概念フレームワーク(設定主体)
第3回	概念フレームワーク(目的)
第4回	概念フレームワーク(意思決定有用性)
第5回	概念フレームワーク(整合性)
第6回	概念フレームワーク(比較可能性)
第7回	概念フレームワーク(構成要素の定義)
第8回	概念フレームワーク(構成要素の評価)
第9回	概念フレームワーク(認識)
第10回	利益の基礎概念(概要)
第11回	利益の基礎概念(経済的所得)
第12回	利益の基礎概念(測定)
第13回	利益の基礎概念(理論的整合性)
第14回	利益の基礎概念(概念フレームワークにおける位置づけ)
第15回	利益の基礎概念(IFRS①)
第16回	利益の基礎概念(IFRS②)
第17回	利益の基礎概念(IFRS③)
第18回	利益測定モデル(Edwards and Bellの概要)
第19回	利益測定モデル(Leeの概要)
第20回	利益測定モデル(主観利潤)
第21回	利益測定モデル(実現可能利潤)
第22回	利益測定モデル(自己創設のれんの転換過程)
第23回	利益測定モデル(会計利益)
第24回	利益の質と監査(定義)
第25回	利益の質と監査(裁量の余地)
第26回	利益の質と監査(情報の非対称性)
第27回	利益の質と監査(アクルアルの特性)
第28回	利益の質と監査(持続可能性との関連)
第29回	授業の総括
第30回	到達度確認

授業方法

演習形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に指定された文献を読んでくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点: 博士前期課程の学生については、文献内容の理解度や発言内容を主に評価する。博士後期課程の学生については、より高度な水準が求められる。
 レポート: 博士前期課程の学生については、リサーチ・プロポーザルを予定している。博士後期課程の学生については、博士論文プロポーザルまたはそれに準じるプロポーザルを予定している。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内での報告を通じて、問題点の指摘や改善点の提示等のフィードバックを行う。

教科書コメント

適宜、指示します。

参考文献コメント

適宜、指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220250201	科目ナンバリング	122F165
講義名	会計監査論特殊研究Ⅰ（大学院）		
英文科目名	Special Study: AuditingⅠ		
担当者名	本川 勝啓		
単位	2	配当年次	M 1年～2年
時間割	第1学期 水曜日 2時限 個人研究室		

授業概要

財務報告の質と監査の質との関連性についての先行研究論文を輪読する。

到達目標

財務報告の質と監査の質との関連性について理解し、研究課題を設定する。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	導入
第3回	財務報告の質(定義・測定)
第4回	監査の質(定義・測定)
第5回	財務報告と監査の質に関する実証結果
第6回	財務報告の質を決定する要素
第7回	監査の質を決定する要素
第8回	財務報告の質を決定する要素としての監査の質
第9回	監査の質を決定する要素としての財務報告の質
第10回	先行研究に基づく議論
第11回	今後の研究課題①(財務報告の質)
第12回	今後の研究課題②(監査の質)
第13回	今後の研究課題③(財務報告と監査の相互作用)
第14回	研究課題の設定
第15回	総括

授業方法

参加者による発表及び議論等。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

受講者は事前に論文の該当箇所を読んでおくこと。(1～2時間程度)
発表者は報告の準備(ワードA4で1～2枚程度)を行う。(1～2時間程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

報告者の報告内容につき適宜コメントする。

教科書コメント

特にテキストを使用する予定はない。輪読を予定している論文は、
Gaynor et al. (2016) ‘Understanding the Relation between Financial Reporting Quality and Audit Quality’, AUDITING: A JOURNAL OF PRACTICE & THEORY, Vol. 35, No.4, pp.1-22.
である。一本の論文を、引用されている文献も含めてしっかり読み込むことを重視する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220252201	科目ナンバリング	122F167
講義名	◆管理会計特殊研究Ⅰ(学部:経営学特殊講義(会計実証研究))(大学院)		
英文科目名	Special Study :Management AccountingⅠ		
担当者名	金田 直之		
単位	2	配当年次	M1年～2年
時間割	第1学期 月曜日 4時限 東2－101		

授業概要

本年度も、会計学における重要性が増している会計実証研究に関する文献講読を行う予定である。情報の非対象性、会計情報の契約支援機能、企業価値、会計情報の有用性など、会計が経済の中でどのような機能を果たしているかを考えていくのに有益な授業をめざす。関連する分野の基礎的な概念を大学院レベルで理解することも目的としている。今年度の授業でも日本語のテキストを使用する予定。全ての授業に参加することが期待されている。また、論文作成等をする上で知っておくべき研究倫理も学ぶ。

到達目標

会計実証分析の基礎を理解し、問題提起やその分析方法について基礎的な提案が行えるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、担当決定など
第2回	情報の非対称性と財務会計
第3回	財務会計の契約支援機能
第4回	契約支援機能の実証研究(1)
第5回	契約支援機能の実証研究(2)
第6回	財務会計の意思決定支援機能
第7回	意思決定支援機能の実証研究(1)
第8回	意思決定支援機能の実証研究(2)
第9回	契約支援機能と会計手続き選択
第10回	契約支援機能の実証研究(3)
第11回	契約支援機能の実証研究(4)
第12回	契約支援機能の実証研究(5)
第13回	意思決定支援機能と会計手続き選択
第14回	意思決定支援機能の実証研究(3)
第15回	総括

授業方法

輪読形式による授業

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当部分を読んでおくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	5 %	
その他(備考欄を参照)	95 %	出席・議論への参加状況・発表などを総合的に評価する。

成績評価コメント

発表者は事前に十分な予習をしているかどうか、基礎的な概念が理解できているかどうか。大学院(M)については、会計実証研究について全体的な動向を把握し、研究テーマを見出すことができる基礎を学ぶことがポイントである。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表や討論の際に、その都度コメントします。

教科書

財務会計の機能,須田一幸,白桃書房、,3,2004

参考文献コメント

その他の参考文献は適宜指示する。

履修上の注意

報告者は担当箇所について要約・説明を行う。また、その後の質疑・応答についても中心的役割を担う。報告者は簡単なレジメを作成すること。

その他

大学院レベルの輪読を中心とした授業である。意欲的な学生の参加を期待したい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220256201	科目ナンバリング	122F147
講義名	経営データ分析特殊研究 I (大学院)		
副題	Black-Sholesモデル		
英文科目名	Special Study: Management Data Analysis I		
担当者名	白田 由香利		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 土曜日 1時限 中央－505		

授業概要

Black-Sholes方程式を学びます。まずは、実際の株価からドリブン係数とボラティリティの値を計算し、そのパラメータ値を用いてBlack-Sholesモデルによる株価変動のシミュレーションを体験し、本モデルの特徴を理解して頂きます。その後ブラック=ショールズ方程式の導出を説明します。微分、偏微分、指数関数、対数関数、期待値、分散、正規分布などの数学の考え方をビジュアルに解説します。ビジュアルな教材とは、3次元グラフィクス、スライダー、アニメーションなどを使い、コンピュータ画面上でグラフィクスを操作しながら、数式の意味するところを分かり易く理解できるようにした教材です。平均値、標準偏差の値をスライダーで動かすことで、つまり、身体を動かすことで、正規分布の性質が真から納得できるようになります。また、講義では、中心極限定理、正規分布の確率密度関数、ブラウン運動、伊藤のレンマなどの用語を解説します。数学から離れていた人を対象として、確率、統計を基礎からグラフィクスを使って分かりやすく実践的に教えますので、安心して履修してください。2019年度から実株価データを用いた演習を行いながら本モデルとの比較を行っており、これにより理解しやすくなりました。

昨今、金融の分野でも機械学習が広く使われています。マルコス・ロベス・デ・ブラドは「計量経済学はファイナンスの学会で(現在では)十分に成功しているが、現場で成功するには機械学習が必要になる」と言っています。後半では、金融で広く使われている樹木系モデルによる回帰、クラス分類の方法を可視化教材によって説明します。

大学院のD/M科目です。Mコースの目標は、個々の定理等を理解し、導出過程の全様を理解することです。Dコースの目標はさらに進め、定理の取捨選択を行い、自分でモデルを構築するスキルの養成です。金融工学のモデル構築方法は他分野のかたにも役立つ知識です。とにかく、楽しい、分かる、しかも実践的なクラスです。

到達目標

博士前期課程:ブラックショールズモデルで株価シミュレーションができるようになる。
博士後期課程:オプションの値付けにいたる本モデルの構築の考え方を理解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション: ゴールの公式までの演繹推論の概説「ブラックショールズの公式とはオプションの利潤の期待値の式」
第2回	実株価データ検索演習
第3回	実株価データの可視化:ヒストグラム、標準化、標準偏差など
第4回	ブラックショールズの公式による株価変動シミュレーション演習
第5回	感じて理解する数学 第5章 金融数学の企保は債券数学ー確定利付債券, 満期利回り, IRRー
第6回	感じて理解する数学 第6章 動かして理解する債券の価格・利回りカーブ
第7回	役に立つ数学 第7章 中心極限定理
第8回	ブラックショールズの公式:ブラウン運動
第9回	ブラックショールズの公式:伊藤のレンマ
第10回	ブラックショールズの公式:, 2次有限変分
第11回	ブラックショールズの公式:期待値の計算, オプションの現在価値
第12回	モデルの変遷:何を拡張したかったのか
第13回	機械学習:ランダムフォレストによる回帰とクラス分類
第14回	機械学習:XGBoostによる回帰とクラス分類
第15回	総復習

授業計画コメント

金融の現場で活躍している人、将来金融の分野で活躍したい人の数学力、論理力を伸ばすための講義です。少人数の面授による演習です。日本の数学は、目の前の数学問題を急いで解く、という科目になっていますが、このクラスは異なります。先生とプログラムを組みながら、グラフィクスを見ながら、数学をゆっくり考え理解していきます。数式を追っていくことに注力するのではなく、その後ろにあるモデルの考え方を可視化教材で理解していきます。テキストは独自にこの科目用に作成したものを使います。また、すべての項目に教員が作成したグラフィクスが付きます。家でも使えます。今までの数学とは違う数学を体験してみたい人、数学ができるようになりたい人、金融数学のモデル構築のセンスを身に着けたい人、いらしてください。http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~20010570/mathABC/SELECTED/

授業方法

昨年度の本講義では、伊藤のレンマの2次変分有限などの数学の証明はスキップしました。今年も「難しい証明はスキップして、本筋を掴む」「シミュレーションを見て、内容を理解する」という方針に変わりはありません。大学院の講義で、少人数ですので、全員がブラック=ショールズ方程式を分かった気分になるまで、懇切丁寧な責任をもって教えます。本講義は、社会人の科目等履修生を想定しています。人によって、分からない部分が違いますが、今年も、分かるまで繰り返し教えます。昨年度の受講者も、全員分かった気分になりました。webシステムにより、講義の中でコンピュータ・ビデオを補助教材として用います。授業の理解が十分でなかった時、欠席した時も自分自身の理解のレベルに沿って、復習や授業の補足が出来ます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

準備は必要ありませんが、講義の内容を自分で、再度、書き写して提出、というレポートをほぼ毎回出します。社会人で欠席する人のことも考慮し、対応する箇所は指示しますので、そこを書き写して提出してください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

忙しい社会人(金融関連等)が多いので、仕事の都合も考慮します。Dコースとして履修する学生に対しては、別途、モデル構築に関する課題レポートを追加で出します。平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50% レポート:50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

赤入れして返却します。

教科書

悩める学生のための経済・経営数学入門,白田由香利,共立出版,2009

大学生のための役に立つ数学,白田由香利,橋本隆子,市川収,鈴木桜子,共立出版,2014

感じて理解する数学入門——身近な事例を動かして学ぶ,白田由香利,橋本隆子,飯高茂,オライリー・ジャパン,2012

参考文献

ファイナンス機械学習ー金融市場分析を変える機械学習アルゴリズムの理論と実践,マルコス・ロペス・デ・プラド(訳:大和アセットマネジメント),一般社団法人 金融財政事情研究会,2019

その他

<http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~20010570/mathABC/SELECTED/> のサイトに動かせるグラフィクス教材と、ビデオ教材(英語のみ)がありますので、家で予習ができます。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220257201	科目ナンバリング	122F148
講義名	経営データ分析特殊研究Ⅱ（大学院）		
副題	経営のためのデータ分析と可視化		
英文科目名	Special Study: Management Data Analysis Ⅱ		
担当者名	白田 由香利		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 土曜日 1時限 中央－505		

授業概要

経営でよく使うデータ分析手法をmathematicaで学びます。mathematicaのプログラミングを学べます。

到達目標

博士前期課程:データ分析手法が習得できます。
博士後期課程:自分の研究に関連した問題を自分で設定して、その分析のためのプログラミングを作れるようになる

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	線形回帰分析
第3回	データ前処理のためのエディタの正規表現
第4回	主成分分析:分散共分散行列の固有ベクトル
第5回	数学:固有ベクトルと固有値
第6回	主成分分析の可視化
第7回	株価の時系列データプロット
第8回	株価銘柄の相関分析
第9回	株価銘柄の類似度計算
第10回	ポートフォリオ作成のためのランダム行列理論
第11回	数学:Singular Value Decompostion
第12回	世界地図上のデータプロット(GeoBubbleChart)
第13回	IRRの計算:高次方程式の解法
第14回	債券の価格・利回り曲面の3次元プロット
第15回	総まとめ

授業方法

前半にデータ分析手法とプログラミングを説明し、残りの時間で演習を行います。講義中にできなく場合、次回までにやってきて、紙で提出すること。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

復習として、毎回30分程度。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

忙しい社会人(金融関連等)が多いので、仕事の都合も考慮します。Dコースとして履修する学生に対しては、別途、ポートフォリオ構築に関する課題レポートを追加で出します。平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50% レポート:50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

プログラムが動くまで指導します。

教科書コメント

<https://www-cc.gakushuin.ac.jp/~20010570/MATHEMATICA/mathematicaFEBUITextbook/>、
<https://www-cc.gakushuin.ac.jp/~20010570/FEBUIText/> に配布資料があります。

履修上の注意

事前に必ず履修相談してください。マシン数(ライセンス数)に制限があるため、履修員数が多い場合、研究上必要度の高い順に調整させていただきます。2名で1台というように工夫をしていきます。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220258201	科目ナンバリング	122F153
講義名	経営意思決定特殊研究Ⅰ（大学院）		
英文科目名	Special Study: Decision ScienceⅠ		
担当者名	佐々木 康朗		
単位	2	配当年次	M1年～2年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 個人研究室		

授業概要

意思決定やシステム科学に関する文献を輪読する。（課題文献は、履修者の興味関心に応じて相談のうえ決定する。）また、履修者各自の研究内容についての発表、議論も行う。

到達目標

意思決定やシステム科学に関する理解を深め、各自の研究に活かす、もしくはそのための視野を広げる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	文献の輪読(1)
第3回	文献の輪読(2)
第4回	研究プレゼンテーション(1)
第5回	文献の輪読(3)
第6回	文献の輪読(4)
第7回	研究プレゼンテーション(2)
第8回	文献の輪読(5)
第9回	文献の輪読(6)
第10回	研究プレゼンテーション(3)
第11回	文献の輪読(7)
第12回	文献の輪読(8)
第13回	研究プレゼンテーション(4)
第14回	総合ディスカッション
第15回	まとめ

授業計画コメント

実際の進め方は、履修者の理解度や興味関心に応じて適宜、調整する。

授業方法

文献の輪読、研究内容のプレゼンテーションと議論。毎回、発表担当者を決め、その報告内容をもとに議論する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

発表担当者は、きちんと発表の準備をすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	出席および議論への貢献度
その他(備考欄を参照)	50 %	発表時の報告内容

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表、報告内容について、その場でコメントする。

履修上の注意

第1回に必ず出席すること。出席しない場合、履修を許可しないことがある。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220259201	科目ナンバリング	122F154
講義名	経営意思決定特殊研究Ⅱ（大学院）		
英文科目名	Special Study: Decision Science Ⅱ		
担当者名	佐々木 康朗		
単位	2	配当年次	M 1年～2年
時間割	第2学期 火曜日 2時限 個人研究室		

授業概要

意思決定やシステム科学に関する文献を輪読する。（課題文献は、履修者の興味関心に応じて相談のうえ決定する。）また、履修者各自の研究内容についての発表、議論も行う。

到達目標

意思決定やシステム科学に関する理解を深め、各自の研究に活かす、もしくはそのための視野を広げる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	文献の輪読(1)
第3回	文献の輪読(2)
第4回	研究プレゼンテーション(1)
第5回	文献の輪読(3)
第6回	文献の輪読(4)
第7回	研究プレゼンテーション(2)
第8回	文献の輪読(5)
第9回	文献の輪読(6)
第10回	研究プレゼンテーション(3)
第11回	文献の輪読(7)
第12回	文献の輪読(8)
第13回	研究プレゼンテーション(4)
第14回	総合ディスカッション
第15回	まとめ

授業計画コメント

実際の進め方は、履修者の理解度や興味関心に応じて適宜、調整する。

授業方法

文献の輪読、研究内容のプレゼンテーションと議論。毎回、発表担当者を決め、その報告内容をもとに議論する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

発表担当者は、きちんと発表の準備をすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	出席および議論への貢献度
その他(備考欄を参照)	50 %	発表時の報告内容

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表、報告内容について、その場でコメントする。

履修上の注意

第1回に必ず出席すること。出席しない場合、履修を許可しないことがある。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220314101	科目ナンバリング	122F005
講義名	◆データ解析演習 I (学部:経営学特殊講義(Excelによるデータ操作とVBA))(大学院)		
英文科目名	Seminar: Data Analysis I		
担当者名	竹内 俊子		
単位	4	配当年次	M 1年～2年
時間割	通年 火曜日 4時限 西1－205		

授業概要

パソコンを使いさまざまなデータ分析・数値解析を行なうことは、経営学の幅広い分野で必須の技術です。この授業では表計算ソフト Excelを駆使してデータ分析・数値解析を行ない、数量的な知見を得られるようになることを目的とします。最初に、分析前のデータの準備に重点をおき、Excelの各種機能について実習します。その後、Excelのさらなる高度な利用をねらい、VBAの初歩を学習します。

到達目標

Excelの機能を利用し、研究発表や論文などに必要となるデータ整理及びデータ分析・数値解析ができるようになることを目標とします。さらに、Excelの標準機能にないさまざまな分析をVBAを用いてできるようになることを目指します。学部学生は問題解決能力を、大学院生は専門的な調査研究をする力を身につけます。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス Excel基本操作の確認
第2回	データの操作1 (外部データの読込、リストの作成)
第3回	データの操作2 (並べ替え、抽出)
第4回	データの加工1 (小計、統合)
第5回	データの加工2 (基本的な式、関数)
第6回	データの加工3 (式、関数、絶対参照)
第7回	データの加工4 (データ分析)
第8回	理解度の確認
第9回	総合練習
第10回	データの分析1 (データの整理)
第11回	データの分析2 (さまざまな関数)
第12回	データの分析3 (グラフの作成)
第13回	データの分析4 (ソルバー)
第14回	まとめ
第15回	到達度確認
第16回	第1学期の復習
第17回	マクロの記録
第18回	VBの文法1 (基本構造)
第19回	VBの文法2 (制御構造、繰り返し)
第20回	VBの文法3 (制御構造、条件分岐)
第21回	VBAの文法1 (Excel固有のオブジェクト)
第22回	VBAの文法2 (メソッドとプロパティ)
第23回	数値計算プログラム
第24回	ユーザーフォーム、副プログラム
第25回	ワークシート関数の作成
第26回	ワークシート関数の利用
第27回	プログラム作成1 (ワークシート操作)
第28回	プログラム作成2 (数値解析)
第29回	まとめ
第30回	到達度確認

授業方法

実習形式で行ないます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配布した資料の内容を理解し、練習問題をすべて行い、次の授業に臨んでください(約4時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	50 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	練習問題
その他(備考欄を参照)	40 %	課題

成績評価コメント

データ整理及びデータ分析・数値解析の能力とあわせて、学部学生は自ら問題を解決する力を、大学院生は専門的な調査研究をする力を評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テストや課題の結果については、授業時に口頭、もしくはメールにてコメントします。

教科書コメント

適宜、授業時に資料を配布します。

参考文献コメント

授業開始時に紹介します。

履修上の注意

履修希望者が一定の数を超えた場合には、人数を制限することがありますので、履修希望者は必ず第1回目の授業に出席して下さい。出席していない学生は履修を認められないことがありますので注意して下さい。

その他

Excelの基本操作を習熟していることが必要です。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220316101	科目ナンバリング	122F007
講義名	データ解析演習Ⅲ（大学院）		
副題	ロジットモデルの基礎と応用		
英文科目名	Seminar: Data Analysis Ⅲ		
担当者名	田島 博和		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 木曜日 1時限 南1－201		

授業概要

ロジットモデルは、消費者のブランド選択などを説明する古典的な確率的離散選択モデルです。この授業ではロジットモデルについて、とくに数学や確率の部分をできるだけ厳密に学びます。

到達目標

- 【博士前期課程】一変数の多項ロジットモデルを理解し、Excelのソルバー等を使って分析できるようになる。
- 【博士後期課程】多変数の多項ロジットモデルを理解し、R等を使って分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	一変数ロジットモデルの概要説明(1)
第3回	一変数ロジットモデルの概要説明(2)
第4回	一変数関数の微分と極値(1)
第5回	一変数関数の微分と極値(2)
第6回	一変数関数のTaylor展開と最適化アルゴリズム(1)
第7回	一変数関数のTaylor展開と最適化アルゴリズム(2)
第8回	尤度関数と最尤推定量(1)
第9回	尤度関数と最尤推定量(2)
第10回	一変数ロジットモデルのパラメータ推定のアルゴリズム(1)
第11回	一変数ロジットモデルのパラメータ推定のアルゴリズム(2)
第12回	ソルバーによる一変数ロジットモデルのパラメータ推定のコンピュータ・プログラミング(1)
第13回	ソルバーによる一変数ロジットモデルのパラメータ推定のコンピュータ・プログラミング(2)
第14回	Rによる一変数ロジットモデルのパラメータ推定のコンピュータ・プログラミング(1)
第15回	Rによる一変数ロジットモデルのパラメータ推定のコンピュータ・プログラミング(2)
第16回	多変数ロジットモデルの概要説明
第17回	弾力性とその解釈
第18回	二変数関数の微分と極値
第19回	二変数関数のTaylor展開と最適化アルゴリズム
第20回	二変数ロジットモデルのパラメータ推定のアルゴリズム
第21回	古典的な論文講読(1)
第22回	古典的な論文講読(2)
第23回	古典的な論文講読(3)
第24回	古典的な論文講読(4)
第25回	古典的な論文講読(5)
第26回	古典的な論文講読(6)
第27回	二変数ロジットモデルのパラメータ推定のコンピュータ・プログラミング
第28回	補足1: 打ち切りデータへの対応～ハザード関数によるモデリング
第29回	補足2: 小標本データへの対応～ベイズ統計学の援用
第30回	理解度の確認

授業方法

この授業は講義とグループワークを組み合わせで行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業で用いるプリントでよく予習・復習して下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

【博士前期課程】ロジットモデルの数学的構造の理解の程度が、評価のポイントになります。

【博士前期課程】上記に加え、実際に分析するスキルの程度も、評価のポイントになります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験でフィードバックします。

教科書コメント

初回の授業で、教科書について説明します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220317101	科目ナンバリング	122F008
講義名	データ解析演習Ⅳ（大学院）		
英文科目名	Seminar: Data Analysis Ⅳ		
担当者名	竹内 俊子		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 火曜日 3時限 西1－205		

授業概要

研究を行う上で必要なデータ解析の知識を学びます。分析手法を理解し、履修者一人一人が統計解析ソフトウェアを操作することにより、自ら分析し、分析結果について解釈できるようになることを目的とします。

到達目標

データ解析の基本を身につけ、統計解析ソフトウェアを用いて分析を行い、自らの研究において分析手法を適切に用いることを目標とします。
 大学院Mでは専門的な調査研究をする力、大学院Dでは専門的研究活動を独自に遂行する力を身につけます。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	データ解析の基本
第3回	実習（基本操作）
第4回	相関
第5回	実習（相関）
第6回	χ^2 検定、t検定
第7回	実習（検定）
第8回	分散分析
第9回	実習（分散分析）
第10回	回帰分析
第11回	実習（回帰分析）
第12回	因子分析
第13回	主成分分析
第14回	まとめ
第15回	到達度確認
第16回	実習（因子分析・主成分分析）
第17回	共分散構造分析
第18回	実習（共分散構造分析）
第19回	クラスタ分析
第20回	実習（クラスタ分析）
第21回	判別分析
第22回	実習（判別分析）
第23回	ロジスティック回帰分析
第24回	実習（ロジスティック回帰分析）
第25回	コレスポンデンス分析
第26回	実習（コレスポンデンス分析）
第27回	コンジョイント分析
第28回	実習（コンジョイント分析）
第29回	まとめ
第30回	到達度確認

授業計画コメント

授業計画は、履修者の希望や進捗状況により変更する可能性があります。

授業方法

分析ごとに、分析の考え方、分析事例の紹介、統計ソフトウェアの操作、実習の順に進めていきます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前に予め該当箇所を読み、疑問点をまとめておいてください(約2時間)。
授業後は分析手法を使いこなせるように復習してください(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	0 %	
学年末試験(第2学期)	0 %	
中間テスト	0 %	
レポート	50 %	
小テスト	0 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	0 %	

成績評価コメント

大学院Mでは専門的な調査研究をする力、大学院Dでは専門的研究活動を独自に遂行する力を評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業時のプレゼンテーション及びレポートに対してコメントをします。

教科書コメント

授業開始時に指定します。

参考文献コメント

授業時に適宜紹介します。

履修上の注意

履修希望者が一定の数を超えた場合には、人数を制限することがありますので、履修希望者は必ず第1回目の授業に出席して下さい。出席していない学生は履修を認められないことがありますので注意して下さい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220324101	科目ナンバリング	122F071
講義名	マーケティングサイエンス演習(大学院)		
英文科目名	Seminar: Marketing Science		
担当者名	杉田 善弘		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 月曜日 5時限 中央－502		

授業概要

マーケティング・サイエンスの論文作成に必要な知識を実際に論文を執筆しながら習得します。

到達目標

博士前期課程の学生は研究課題を絞り、マーケティング・サイエンスの研究法に則った興味深いデータ分析ができるようになる。博士後期課程の学生は独自のモデルを開発し、実際のデータでモデルの検証をする。

授業内容

実施回	内容
第1回	紹介
第2回	研究とは
第3回	業界研究:製品
第4回	業界研究:消費者
第5回	業界研究:企業(ライバルを含む)
第6回	業界研究:課題抽出
第7回	文献レビュー(1)
第8回	文献レビュー(2)
第9回	質問表作成法
第10回	統計的分析の基礎(1):記述統計量
第11回	統計的分析の基礎(2):統計的推論
第12回	統計的分析の基礎(3):統計的検定
第13回	統計的分析の基礎(4):回帰分析
第14回	1学期のまとめ
第15回	予備日
第16回	仮説設定(1)
第17回	仮説設定(2)
第18回	アンケート作成(1)
第19回	アンケート作成(2)
第20回	アンケート実施
第21回	アンケートの分析(1)
第22回	アンケートの分析(2)
第23回	仮説の検証(1)
第24回	仮説の検証(2)
第25回	結果の解釈(1)
第26回	結果の解釈(2)
第27回	論文の全体発表(1)
第28回	論文の全体発表(2)
第29回	1年のまとめ
第30回	予備日

授業方法

各授業時間を受講者に割り当て、それぞれの研究課題について、受講者の報告を基に個別の指導を行います。割り当てられた受講者以外の受講者も討論に参加します。質問票作成法と統計的分析の基礎については、トピックごとに担当者を決め、担当者の発表を基に学習します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に選んだ研究課題について割り当てられた授業のための準備をしてきてください(約60分/週)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	報告、討論を含む
その他(備考欄を参照)	50 %	論文

成績評価コメント

論文、平常点を総合的に考慮して成績を評価します。博士前期課程の学生は、マーケティング・サイエンス分野の応用論文を執筆するための知識を評価します。博士後期課程の学生は、マーケティング・サイエンス分野の論文を執筆するための独自の提案についても評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

受講者の報告について授業時間内にコメントします。

参考文献コメント

授業時に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

主な履修対象者は大学院杉田ゼミ、ゼミ生です。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220325101	科目ナンバリング	122F081
講義名	経営学演習 I (大学院)		
副題	医療制度改革の現状と評価		
英文科目名	Seminar: Business Management I		
担当者名	遠藤 久夫		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 月曜日 1時限 個人研究室		

授業概要

少子高齢化の進展と経済成長の鈍化に直面する日本にとって、社会保障制度改革が第一級の国内問題である。前半では、日本の医療制度・介護制度の現状と課題を理解し、制度改革の在り方について学習する。
 後半では、いくつかの医療制度改革について研究し、レポートを作成する。
 前半は「医療システム論」(経営学科月曜2時限)を聴講すること。

到達目標

博士前期課程:医療制度、介護制度を理解し、医療制度改革の内容を適切に評価できるようになることを目標とする。
 博士後期課程:上記に加え、独自の医療制度改革を構想することを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	日本の医療提供体制1:医療機関の特徴
第3回	日本の医療提供体制2:医師・看護師の育成と労働市場
第4回	日本の医療保険制度1:医療費の構造と医療保険体系
第5回	日本の医療保険制度2:混合診療の禁止の是非
第6回	診療報酬制度の特徴:政策手段としての診療報酬
第7回	薬価基準制度の特徴:新薬開発インセンティブと薬剤費抑制
第8回	国民医療費の制御:診療報酬改定率と自己負担
第9回	日本の少子高齢化の動向
第10回	高齢化と医療1:医療費の増加と負担問題(全世代型社会保障)
第11回	高齢化と医療2:地域別の病床再編(地域医療構想)
第12回	介護保険制度1:介護保険制度の特徴
第13回	介護保険制度2:介護保険制度の課題
第14回	高齢化と地域包括ケア
第15回	理解度の確認
第16回	医療制度改革・介護制度改革のテーマの選定1
第17回	医療制度改革・介護制度改革のテーマの選定2
第18回	テーマについての発表とディスカッション1
第19回	テーマについての発表とディスカッション2
第20回	テーマについての発表とディスカッション3
第21回	テーマについての発表とディスカッション4
第22回	テーマについての発表とディスカッション5
第23回	テーマについての発表とディスカッション6
第24回	テーマについての発表とディスカッション7
第25回	テーマについての発表とディスカッション8
第26回	テーマについての発表とディスカッション9
第27回	テーマについての発表とディスカッション10
第28回	テーマについての発表とディスカッション11
第29回	講評1 テーマについて
第30回	講評2 方法論について

授業方法

前半は講義形式 後半は選択したテーマについて受講生が調査し討論を行い、最終的にはレポートを作成する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

関連する論文・書籍や新聞・雑誌を積極的に読み、質の高いレポートの作成を期待する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程:医療・介護制度を理解し、医療制度改革の内容を適切に評価できるかが評価ポイント。

博士後期課程:上記に加え、院生自ら構想する医療制度改革案を実行可能性の視点から評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業時に毎回、質問を受けて課題の理解を深める。

教科書コメント

前半の講義では毎回、レジュメを配布し、教科書は使用しない。後半は、必要分文献を適宜紹介する。

参考文献コメント

授業中に適宜、紹介する。

履修上の注意

履修希望者は第一回目の授業に必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220327101	科目ナンバリング	122F021
講義名	戦略行動演習(大学院)		
英文科目名	Seminar: Strategic Behavior		
担当者名	RTISCHEV, Dmitry		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 木曜日 5時限 東2－103		

授業概要

本授業は、先行研究の文献を通じて戦略行動の理解を深めるとともに、戦略行動を表す数理モデルの構築のスキルを身につけることを目標とする。

到達目標

戦略的行動が起こる状況を経営に役立つ形で分析するスキルを獲得する。博士前期課程の院生については、修士論文の完成に向けて指導していく。博士後期課程の院生については、学会報告と学会誌への投稿を目指して指導していく。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	文献1(紹介)
第3回	文献1(討論)
第4回	文献2(紹介)
第5回	文献2(討論)
第6回	文献3(紹介)
第7回	文献3(討論)
第8回	文献4(紹介)
第9回	文献4(討論)
第10回	文献5(紹介)
第11回	文献5(討論)
第12回	数理モデル構築1(発表・討論)
第13回	数理モデル構築2(発表・討論)
第14回	数理モデル構築3(発表・討論)
第15回	数理モデル構築4(発表・討論)
第16回	文献6(紹介)
第17回	文献6(討論)
第18回	文献7(紹介)
第19回	文献7(討論)
第20回	文献8(紹介)
第21回	文献8(討論)
第22回	文献9(紹介)
第23回	文献9(討論)
第24回	文献10(紹介)
第25回	文献10(討論)
第26回	数理モデル構築5(発表・討論)
第27回	数理モデル構築6(発表・討論)
第28回	数理モデル構築7(発表・討論)
第29回	数理モデル構築8(発表・討論)
第30回	総括、フィードバック

授業方法

戦略行動に関する文献を輪読し、ディスカッションを行う。履修者それぞれのテーマに関する数理モデルを作成し、発表する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に文献を読んでおくこと

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士後期課程の受講者は、博士前期課程の受講者より高い基準に基づいて評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に受講者の理解度を確認の上、授業内容に反映させる。

教科書コメント

教材は授業中に適宜指定する

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

本授業でとりあげる文献を理解するために学部レベルのゲーム理論とマイクロ経済学(またはビジネスエコノミクス)の知識が不可欠である。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220328101	科目ナンバリング	122F023
講義名	○イノベーション演習(大学院)		
英文科目名	Seminar: Innovation		
担当者名	和田 哲夫		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 金曜日 4時限 個人研究室.第2学期 金曜日 5時限 個人研究室		

授業概要

実証研究の枠組みを考案し実行する過程では、理論・仮説・検証材料・検証方法の各側面において辛抱強く反復見直しする必要がある。理論枠組みやリサーチツールに関して、場合によっては狭義の経済学・経営学を超えて他分野の研究から学び、基本的な学問構造の違いも踏まえて応用可能性を深く考え直す必要まで出てくる場合がある。それら研究探索の機会を繰り返し提供し、論理枠組みや根拠・手法等に関する指摘を含む援助を行う。

到達目標

博士前期課程の学生は、イノベーションの専門分野において当然理解しておくべき先行研究から様々なアイデアを学び応用するための研究基礎力を磨き相応の成果を残すことを目標とする。 博士後期課程の学生は、イノベーション分野において自立して専門的研究活動を行い、既存の知識体系に対して新規性・進歩性のある独自研究を行うための能力を得て相応の成果を残すことを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	イノベーション研究に関する基本知識確認
第2回	イノベーションに関わる研究問題設定確認
第3回	研究手法提案・可能性探索
第4回	研究計画提案
第5回	先行研究サーベイ1
第6回	先行研究サーベイ2
第7回	データを含む検証方法検討
第8回	問題設定見直しと仮説設定
第9回	研究手法の再検討
第10回	検証の試行1
第11回	検証の試行2
第12回	検証の試行3
第13回	検証結果評価
第14回	問題設定・仮説・検証手法の再検討
第15回	学期まとめ
第16回	異なる学問分野からのアプローチのサーベイ
第17回	問題設定・仮説・検証手法の再検討
第18回	仮説検証作業と結果検討1
第19回	仮説検証作業と結果検討2
第20回	仮説検証作業と結果検討3
第21回	仮説検証作業と結果検討4
第22回	仮説検証作業と結果検討5
第23回	問題設定・仮説・検証手法の再検討
第24回	仮説検証作業と結果検討6
第25回	仮説検証作業と結果検討7
第26回	論文作成作業1
第27回	論文作成作業2
第28回	論文作成作業3
第29回	論理構成の再検討
第30回	まとめ

授業方法

論文作成を目的とした演習を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

理論・仮説・検証材料・検証方法のいずれかの側面において、演習各回ではその前回からの改善進歩のための試みを示してもらう。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(研究実施に対する投入労力の質と量を評価。とくに後期課程学生は独立した研究能力を示す思考・表現水準を要求する。) レポート:50%(タームペーパー等の研究成果を評価。とくに後期課程学生は博士論文に必要な思考・表現水準を要求する。)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の課題に対して口頭やメール等によりコメント・助言を与える。

履修上の注意

履修者数制限あり。／第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220329101	科目ナンバリング	122F011
講義名	経営組織論演習(大学院)		
英文科目名	Seminar: Business Organization		
担当者名	武石 彰		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 水曜日 2時限 個人研究室		

授業概要

この授業は、博士前期、同後期課程の学生が、マクロ組織論およびその周辺・関連領域(とくに戦略論、技術経営論など)で学術的な実証研究を行うための基礎的な知識と能力を修得するためのものである。とくに、①経営学における実証的学術研究を進めていく上での方法論に関する基本的な文献の輪読、②マクロ組織論およびその周辺・関連領域における基礎的な学術的文献ならびに各学生が自らの研究に応用しようとする学術的文献の輪読、③各学生の研究計画報告、経過報告を中心に授業を進めていく。

到達目標

マクロ組織論およびその周辺・関連領域(とくに戦略論、技術経営論など)において自ら実証研究を設計、実施し、論文を作成していくための能力を身につけることを目標とする。とくに、博士前期課程の学生は、基礎的な理論を理解、習得して、それを実証研究に応用するための能力を身につけること、博士後期課程の学生は、関連する主要な理論の関係を踏まえながら、自らの実証研究を位置づけ、妥当性の高い実証研究を実施し、その学術的貢献を明確にするための能力を身につけることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス:授業の概要、進め方の説明、履修者の研究の関心
第2回	履修者の研究計画の報告(1)
第3回	実証研究の方法に関する輪読(1)
第4回	実証研究の方法に関する輪読(2)
第5回	実証研究の方法に関する輪読(3)
第6回	実証研究の方法に関する輪読(4)
第7回	履修者の研究計画の報告(2)
第8回	履修者の研究計画の報告(3)
第9回	研究テーマに関連する文献の輪読(1)
第10回	研究テーマに関連する文献の輪読(2)
第11回	研究テーマに関連する文献の輪読(3)
第12回	研究テーマに関連する文献の輪読(4)
第13回	履修者の研究計画の報告(4)
第14回	履修者の研究計画の報告(5)
第15回	予備日
第16回	ガイダンス:授業の概要、進め方の説明、履修者の研究の関心
第17回	履修者の研究計画の報告(6)
第18回	履修者の研究計画の報告(7)
第19回	実証研究の方法に関する輪読(5)
第20回	実証研究の方法に関する輪読(6)
第21回	研究テーマに関連する文献の輪読(5)
第22回	研究テーマに関連する文献の輪読(6)
第23回	研究テーマに関連する文献の輪読(7)
第24回	履修者の研究計画の報告(8)
第25回	履修者の研究計画の報告(9)
第26回	研究テーマに関連する文献の輪読(8)
第27回	研究テーマに関連する文献の輪読(9)
第28回	履修者の研究計画の報告(10)
第29回	履修者の研究計画の報告(11)
第30回	予備日

授業計画コメント

授業の内容、進め方、スケジュールは、履修者の人数を踏まえて、再調整する可能性がある。

授業方法

文献の輪読と各学生の研究計画報告、経過報告を中心に進める。文献の輪読では、事前に割り当てられた報告者が用意したレジメ

に基づいて当該論文の内容について報告し、それに基づいて質疑、ディスカッションするという方法をとる予定である。また研究計画報告、経過報告では、各自の研究計画と(研究着手後は)経過・進捗状況について、事前に資料を用意し、発表し、それに基づいて質疑、ディスカッションするという方法をとる予定である。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

輪読で取り上げる文献を事前に精読し、授業に臨むこと。報告担当者は事前に報告用のレジメを用意すること。研究計画報告、経過報告では事前に報告資料を用意して、授業で報告すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	報告、レジメの内容
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	出席、ディスカッション
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

文献輪読の報告、レジメでは文献の内容を正確に理解、要約、報告しているかを基準にして評価する。ディスカッションでは発言の回数と質(特に討議の主題をめぐって的確な議論ができているかどうか)を基準に評価する。研究計画と経過報告においては、的確な計画が用意できているか、研究が的確に進められているかを基準に評価する。とくに、博士前期課程の学生は、基礎的な理論に基づいた、妥当性の高い実証研究が計画、実施されているかどうか、博士後期課程の学生は、関連する主要な理論の相互の関係を踏まえながら、妥当性の高い実証研究が計画、実施されているかどうかを評価の基準とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レジメ、報告の内容について、必要に応じて、その都度、授業中にコメントする。

教科書コメント

テキストは特に指定しない

履修上の注意

本演習参加者は、経営組織論特殊研究を必ず履修すること。
初回の授業に必ず出席すること。もしやむをえない事情で出席できない場合には、初回の授業の前にメールなどで担当教員に必ず連絡すること。

その他

担当教員と連絡を取りたい時には、大学のメールアドレスにメールを送ること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220330101	科目ナンバリング	122F012
講義名	組織行動論演習(大学院)		
英文科目名	Seminar: Organizational Behavior		
担当者名	竹内 倫和		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 月曜日 2時限 個人研究室		

授業概要

本演習では、組織(企業)で働く従業員の態度や行動のメカニズムについて、心理学的視点をもとに理解することを目的としています。組織行動論は、行動科学(behavioral science)や産業・組織心理学(industrial and organizational psychology)の知見を踏まえ、学問的には体系化が試みられてきていますが、欧米の経営系の大学院を中心に、必須の科目としてその重要性が指摘されています。また、近接する領域として人的資源管理論が挙げられ、組織行動論の知見をもとに、企業の人材マネジメントを考えることも重要である。本講義では、国内外の研究や文献を用い、組織行動論の重要な概念及びトピックについて検討していく。

到達目標

博士前期課程の学生は、組織行動論の基礎的理論や概念を理解し、現実の企業経営においてどのような形で用いられているかを理解することを目標とし、博士後期課程の学生は、組織行動論の理論や概念を踏まえ、それら考え方を自身の研究にどのような形で援用できるのかについて考えることを目標としています。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:本演習の進め方、方針
第2回	組織行動論の歴史
第3回	パーソナリティ(1):パーソナリティ理論
第4回	パーソナリティ(2):個人－環境適合理論
第5回	モチベーション(1):内容理論
第6回	モチベーション(2):過程理論
第7回	組織社会化(1):予期的社会化
第8回	組織社会化(2):組織内社会化
第9回	組織コミットメント(1):組織コミットメント概念
第10回	組織コミットメント(2):組織コミットメントの規定・結果変数
第11回	組織コミットメント(3):ワーク・コミットメント
第12回	組織コミュニケーション
第13回	経営組織と集団行動
第14回	リーダーシップ(1):特性・行動理論
第15回	リーダーシップ(2):コンティンジェンシー理論・まとめ
第16回	リーダーシップ(3):上司-部下間交換関係(LMX)理論
第17回	組織文化
第18回	人的資源管理政策・施策:組織行動論の視点から
第19回	キャリア発達論(1):キャリア発達理論
第20回	キャリア発達論(2):バウンダリーレス・キャリア概念
第21回	組織ストレス(1):ストレス理論
第22回	組織ストレス(2):コーピング方略
第23回	組織ストレス(3):組織サポート施策
第24回	仕事と家庭生活(1):ワーク・ファミリー・コンフリクト
第25回	仕事と家庭生活(2):組織のファミリー・フレンドリー施策
第26回	人事アセスメント(1):人事アセスメントと採用選考
第27回	人事アセスメント(2):人事考課と教育研修
第28回	人事アセスメント(3):アセスメントの信頼性と妥当性
第29回	意思決定論
第30回	演習のまとめ

授業計画コメント

実際には、演習参加者の理解度に基づき、進度は変更することがある。

授業方法

演習形式(学生による発表と討議、教員によるコメント) 演習参加者によるテキストと英語論文の輪読、発表をもとに検討していく。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に指定の範囲の教科書及び英語論文を読んで、発表準備を行うこと(約15時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)	70 %	毎回の発表内容に基づく評価

成績評価コメント

初回演習時に詳細を説明するため、必ず参加すること。
博士前期課程の学生は、組織行動論の基礎的理論や概念についての理解度を評価のポイントにし、博士後期課程の学生は、組織行動論の考え方を自身の研究や企業経営にどのように応用できるのかを評価のポイントにする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各課題の重要なポイントは、授業内で説明する。

教科書コメント

テキストと研究論文(英語論文)を併用して検討していく。詳細は初回講義時に説明します。

参考文献

増補改訂版 産業・組織心理学エッセンシャルズ,外島裕・田中堅一郎,増補改訂版,2004
Essentials of Organizational Behavior,Stephen P. Robbins & Timothy A. Judge.,Pearson Education,Global Edition of 10th revised Edition,2009

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

組織行動論は実証科学を前提にしている。したがって、組織行動論に関する研究を理解するためには、統計解析の知識がとても必要になります。履修にあたり、演習参加者は統計学の知識について理解している必要がある。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220334101	科目ナンバリング	122F085
講義名	産業発展論演習(大学院)		
英文科目名	Seminar: Industrial Development		
担当者名	渡邊 真理子		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 木曜日 4時限 個人研究室		

授業概要

出席者の修士論文の作成の助けとなる学習を行う。出席者の修士論文作成に必要な文献の輪読と資料の精査を行う。

到達目標

博士前期課程の院生については、修士論文の完成に向けて指導していく。博士後期課程の院生については、学会報告と学会誌への投稿を目指して指導していく。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクションおよび関心の確認と分担の決定
第2回	履修者による論文報告(1) (論文の紹介と自分の研究計画との関係を議論する)
第3回	履修者による論文報告(2) (論文の紹介と自分の研究計画との関係を議論する)
第4回	履修者による論文報告(3) (論文の紹介と自分の研究計画との関係を議論する)
第5回	履修者による論文報告(4) (論文の紹介と自分の研究計画との関係を議論する)
第6回	履修者による研究進捗報告(1) (研究計画と進行状況の報告と問題点の検証)
第7回	履修者による研究進捗報告(2) (研究計画の進行状況の報告と問題点の検証)
第8回	履修者による研究進捗報告(3) (研究計画の進行状況の報告と問題点の検証)
第9回	履修者による研究進捗報告(4) (研究計画の進行状況の報告と問題点の検証)
第10回	履修者による論文報告(5) (先行文献検討章の報告)
第11回	履修者による論文報告(6) (先行文献検討章の報告)
第12回	履修者による論文報告(7) (先行文献検討章の報告)
第13回	履修者による論文報告(8) (先行文献検討章の報告)
第14回	関連内容に関する講義
第15回	総括
第16回	履修者による研究進捗報告(5) (収集データ、分析の実際の報告)
第17回	履修者による研究進捗報告(6) (収集データ、分析の実際の報告)
第18回	履修者による研究進捗報告(7) (収集データ、分析の実際の報告)
第19回	履修者による研究進捗報告(8) (収集データ、分析の実際の報告)
第20回	履修者による論文報告(9) (各自の問題を解決するヒントとなる論文を報告する)
第21回	履修者による論文報告(10) (各自の問題を解決するヒントとなる論文を報告する)
第22回	履修者による論文報告(11) (各自の問題を解決するヒントとなる論文を報告する)
第23回	履修者による論文報告(12) (各自の問題を解決するヒントとなる論文を報告する)
第24回	履修者による研究進捗報告(9) (各自の研究のファインディングスの報告)
第25回	履修者による研究進捗報告(10) (各自の研究のファインディングスの報告)
第26回	履修者による研究進捗報告(11) (各自の研究のファインディングスの報告)
第27回	履修者による研究進捗報告(12) (各自の研究のファインディングスの報告)
第28回	論文の仕上げ
第29回	論文の仕上げ
第30回	総括

授業方法

以上に挙げた論点について、論文を選び担当を決め、輪読し、議論をする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業中に指示をする

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50% 前期課程学生については、基本的な理論や概念の知識の蓄積を優先し、その習熟度を評価の対象とする。後期課程学生については、基本的な理論、概念と自分の研究テーマの間の設定を適切に行い表現できているかを評価の対象とする。レポート:50%(学生の研究テーマとなる事例、もしくは、データを使った実証を再現するレポートの提出を求める。)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に受講者の理解度を確認の上、授業内容に反映させる。

参考文献コメント

適宜指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220336101	科目ナンバリング	122F015
講義名	経営労務論演習(大学院)		
英文科目名	Seminar: Human Resource Management		
担当者名	守島 基博		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 月曜日 5時限 個人研究室		

授業概要

本講義は、学問としての人的資源管理論(Human Resrouce Management)の基礎的な理論と研究を理解してもらい、将来この分野で研究を行う第一歩を踏み出すための授業である。HRMはこれまで実践的(実務に応用できることを目指す)学問領域として、人事制度の記述および制度が果たす機能の描写に力点が置かれてきた。研究としては、産業組織心理学、組織論、人事経済学などの理論を利用しながら、実証研究がなされてきている。また最近では、わずかだが、HRM独自の理論に基づいた研究も見られるようになってきている。この授業では、こうした発展を追いながら、HRMの枠組みや概念に関する基本的な文献を読み、HRMの枠組みや概念に関する基本的な理解に基づいて、一人ひとりが自分の研究の計画をたてていくことを目指す。そのため、文献等も読むが、演習参加者自身が行っている研究の内容についての発表も大きな位置を占める。

到達目標

・博士前期学生:分野としての人的資源管理論(Human Resrouce Management)の基礎的な理論と研究を理解し、修士論文にふさわしい、緻密で適切な方法論に従った研究計画をたてられるようになることを目標とする。
 博士後期学生:人的資源管理論(Human Resrouce Management)の基礎的な理論と研究の理解に基づき、博士論文にふさわしい、画期的で新規性のある研究計画をたてられるようになることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス:この授業の進め方
第2回	人的資源管理論の基礎(前半)
第3回	人的資源管理論の基礎(後半)
第4回	個別研究の発表その1
第5回	戦略的人的資源管理の基礎:Vertical Fitに関する研究その1
第6回	戦略的人的資源管理の基礎:Vertical Fitに関する研究その2
第7回	戦略的人的資源管理の基礎:制度的補完性に関する研究その1
第8回	戦略的人的資源管理の基礎:制度的補完性に関する理論研究
第9回	戦略的人的資源管理の基礎:制度的補完性に関する研究その2
第10回	戦略的人的資源管理の基礎:Human Capital論に関する研究その1
第11回	マイクロHRM研究;モチベーション、コミットメント、組織市民行動、エンゲージメントなどその1
第12回	マイクロHRM研究;モチベーション、コミットメント、組織市民行動、エンゲージメントなどその2
第13回	戦略的人的資源管理の基礎:Human Capital論に関する実証研究その2
第14回	個別研究の発表その2
第15回	予備日
第16回	マイクロHRM研究;ワークライフバランス、ダイバーシティなどその1
第17回	マイクロHRM研究;ワークライフバランス、ダイバーシティなどその2
第18回	マイクロHRM研究;公平性、コンフリクト、ボイスなどその1
第19回	マイクロHRM研究;公平性、コンフリクト、ボイスなどその2
第20回	マイクロHRM研究;採用、キャリア開発、退職などその1
第21回	マイクロHRM研究;採用、キャリア開発、退職などその2
第22回	各人の研究で使われる文献の検討その1
第23回	各人の研究で使われる文献の検討その2
第24回	各人の研究で使われる方法論の検討その1
第25回	各人の研究で使われる方法論の検討その2
第26回	各人の研究の発表その3
第27回	各人の研究の発表その4
第28回	各人の研究で何が足りないかの検討その1
第29回	各人の研究で何が足りないかの検討その2
第30回	予備日

授業計画コメント

・この演習は受講生各自の研究を効果的に進めることを目的とした演習である。そのため、進め方も含めて、具体的な内容は受講生

と話し合ってから決める。

授業方法

・演習形式(学生による発表とディスカッション)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・学習部分では、事前のテキストおよび実証研究(主に英語)を読み、発表準備をしてくること(週20時間程度)。
- ・また後半の自己研究作成部分では、自己の研究計画の作成を行うこと(週約20時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	期末に提出してもらう研究計画書
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	通常の演習での発言等の貢献
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期学生: 各人の研究計画の内容的新規性、方法論的妥当性および緻密性、研究の進捗状況などを評価する。修士論文を目指すので、壮大で画期的な研究は求めない。
博士後期学生: 各人の研究計画の内容的革新性、方法論的妥当性、研究の進捗状況などを評価する。博士論文なので、学界への貢献が期待される。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の発表毎に内容、発表の仕方等についてコメントする。

教科書

授業の開始時に説明する。

参考文献

- 『人事管理 人と企業、ともに生きるために』: 有斐閣スタジオA, 平野光俊・江夏幾多郎, 有斐閣, 初, 2018, 4641150478
『人材マネジメント入門』: 日経文庫, 守島基博, 日本経済新聞出版社, 初, 2004, 4532110017

参考文献コメント

人的資源管理について基礎的な知識が無い学生は、上記を読むこと。

履修上の注意

生活のなかで、この授業が最も重要であるという覚悟で履修すること。

その他

連絡はメールで行うこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220339101	科目ナンバリング	122F077
講義名	消費者行動演習(大学院)		
副題	消費者行動の実証的研究		
英文科目名	Seminar: Consumer Behavior		
担当者名	青木 幸弘		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 火曜日 2時限 北1－408		

授業概要

本演習においては、消費者行動の実証的研究を行う上で必須となる主要な技法・手法(定量的方法のみならず定性的方法も含む)を取り上げ、その理論的基礎と実証的方法論について検討していく。また、随時、各自の研究テーマに応じた論文指導(論文作成上知っておくべき研究倫理に関する指導を含む)も行っていく。

到達目標

博士前期課程の院生については、修士論文の完成に向けて指導していく。博士後期課程の院生については、学会報告と学会誌への投稿を目指して指導していく。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション 授業計画の説明
第2回	研究手法解説①
第3回	研究手法解説②
第4回	研究論文指導①
第5回	研修論文指導②
第6回	研修論文指導③
第7回	研究論文指導④
第8回	研究手法解説③
第9回	研究手法解説④
第10回	研究論文指導⑤
第11回	研究論文指導⑥
第12回	研究論文指導⑦
第13回	研究論文指導⑧
第14回	第1学期のまとめ
第15回	振り返り
第16回	研究手法解説⑤
第17回	研究手法解説⑥
第18回	研究論文指導⑨
第19回	研究論文指導⑩
第20回	研究論文指導⑪
第21回	研究論文指導⑫
第22回	研究手法解説⑦
第23回	研究手法解説⑧
第24回	研究論文指導⑬
第25回	研究論文指導⑭
第26回	研究論文指導⑮
第27回	研究論文指導⑯
第28回	研究論文指導⑰
第29回	全体的まとめ
第30回	到達度の確認

授業方法

研究手法に関する講義と各自の研究テーマに関する報告、それらに基づくディスカッション。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

研究手法の解説については、配付資料および関連資料に目を通し、重要なポイントを把握・理解しておくこと。研究論文指導については、各自の研究テーマに関して既存研究のレビューを行うと共に、報告準備をしておくこと(2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(各自の研究内容に関する報告):50%(博士前期課程の院生に対しては、修士論文に関する中間報告を義務付け、その内容を評価する。博士後期課程の院生については自分の研究に関する報告に加えて、他の院生の報告に対するコメントを義務付け評価する)、レポート:50%(博士前期課程の院生に対しては、既存研究のレビューや予備調査・本調査などの結果をレポートとして提出することを求める。博士後期課程の院生に対しては、学会報告や学会誌への投稿を前提とした研究プロポーザルや論文の提出を求める)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中およびmanaba(ラーニング・ポートフォリオ・システム)によってフィードバックする。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220340101	科目ナンバリング	122F063
講義名	会計学演習(大学院)		
副題	企業会計に関する理論研究		
英文科目名	Seminar: Accounting		
担当者名	勝尾 裕子		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 土曜日 2時限 東2－104		

授業概要

企業会計に関する理論研究を行う。

到達目標

博士前期課程の学生は、企業会計の分野における基礎的な分析方法を用いた研究を行うことを目標とする。博士後期課程の学生は、企業会計の分野における基礎的及び応用的な分析方法を用いてより高度な水準の研究を行うことを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション、論文作成上の研究倫理
第2回	個人報告①
第3回	個人報告②
第4回	個人報告③
第5回	個人報告④
第6回	個人報告⑤
第7回	個人報告⑥
第8回	個人報告⑦
第9回	個人報告⑧
第10回	個人報告⑨
第11回	個人報告⑩
第12回	個人報告⑪
第13回	個人報告⑫
第14回	総括
第15回	到達度確認
第16回	個人報告①
第17回	個人報告②
第18回	個人報告③
第19回	個人報告④
第20回	個人報告⑤
第21回	個人報告⑥
第22回	個人報告⑦
第23回	個人報告⑧
第24回	個人報告⑨
第25回	個人報告⑩
第26回	個人報告⑪
第27回	個人報告⑫
第28回	個人報告⑬
第29回	総括
第30回	到達度確認

授業方法

演習方式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に、研究報告の準備を行うこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点:博士前期課程の学生は、研究報告に対する姿勢、発言内容等が評価の対象となる。博士後期課程の学生は、より高度な水準の発言内容等が求められる。

レポート:博士前期課程の学生は、基礎的な分析方法を用いた研究の報告が求められる。博士後期課程の学生は、より高度な水準の研究報告が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内での報告を通じて、問題点の指摘や改善点の提示等のフィードバックを行う。

教科書コメント

適宜、指示します。

参考文献コメント

適宜、指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220342201	科目ナンバリング	122F065
講義名	会計監査論演習(大学院)		
英文科目名	Seminar: Auditing		
担当者名	本川 勝啓		
単位	2	配当年次	M 1年～2年
時間割	第2学期 水曜日 2時限 個人研究室		

授業概要

グループで経営者の会計的裁量行動に焦点をあてて企業分析に取り組む。

到達目標

企業の裁量行動を考察し、基本的なケース分析が実践できるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	企業分析の報告・議論(1)企業概要
第3回	企業分析の報告・議論(2)経営戦略分析
第4回	企業分析の報告・議論(3)財務分析
第5回	企業分析の報告・議論(4)会計政策
第6回	企業分析の報告・議論(5)競合他社の分析
第7回	企業分析の報告・議論(6)仮説の構築
第8回	企業分析の報告・議論(7)リサーチデザイン
第9回	企業分析の報告・議論(8)仮説検証
第10回	企業分析の報告・議論(9)検証結果の解釈
第11回	企業分析の報告・議論(10)追加分析
第12回	企業分析の報告・議論(11)頑健性分析
第13回	企業分析の報告・議論(12)分析結果の取り纏め
第14回	企業分析の報告・議論(13)結論と今後の課題
第15回	総括

授業方法

グループワーク

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に報告資料を作成すること。(2週間に5時間程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	クラス参加、グループ作業の成果等
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回授業中に報告者の企業分析内容についてコメントする。

参考文献

契約理論による会計研究,佐藤紘光,中央経済社,2009,9784502298004
京都企業-歴史と空間の産物-,徳賀芳弘,中央経済社,2016,9784502185519

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220343101	科目ナンバリング	122F067
講義名	管理会計演習(大学院)		
英文科目名	Seminar: Management Accounting		
担当者名	金田 直之		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 木曜日 1時限 個人研究室		

授業概要

論文の完成をめざした文献講読・指導を行う。また、論文作成等をする上で知っておくべき研究倫理についても学ぶ。

到達目標

自ら先行研究について調べ、研究計画をたて、主体的に研究活動を行うことができるようになる。博士前期課程の院生については、修士論文の完成に向けて指導していく。博士後期課程の院生については、学会報告と学会誌への投稿を目指して指導していく。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	個人報告①
第3回	個人報告②
第4回	個人報告③
第5回	個人報告④
第6回	個人報告⑤
第7回	個人報告⑥
第8回	個人報告⑦
第9回	個人報告⑧
第10回	個人報告⑨
第11回	個人報告⑩
第12回	個人報告⑪
第13回	個人報告⑫
第14回	総括
第15回	予備日
第16回	個人報告①
第17回	個人報告②
第18回	個人報告③
第19回	個人報告④
第20回	個人報告⑤
第21回	個人報告⑥
第22回	個人報告⑦
第23回	個人報告⑧
第24回	個人報告⑨
第25回	個人報告⑩
第26回	個人報告⑪
第27回	個人報告⑫
第28回	個人報告⑬
第29回	総括
第30回	予備日

授業方法

個別指導

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指示された文献を読んでおくこと(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	5 %	
その他(備考欄を参照)	95 %	

成績評価コメント

出席・議論への参加状況・発表などを総合的に評価する:95%
 博士課程後期の学生については、レポートを課し、研究課題の先行研究についてまとめてもらうこととする。その場合の評価配分は10%とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生の発表についてはその都度コメントを行う。

教科書コメント

適宜指示する。

参考文献コメント

適宜指示する。

履修上の注意

適宜指示する。

その他

受講生は主として指導院生を対象とする。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220345101	科目ナンバリング	122F033
講義名	経営史演習(大学院)		
英文科目名	Seminar: Business History		
担当者名	竹原 有吾		
単位	4	配当年次	M 1年～2年
時間割	通年 金曜日 5時限 中央－506		

授業概要

本演習では、まず経営史学の基本的な知識を確認してもらい、そのうえで研究書等を読んで議論してもらう。それによって経営史学の知識を深めるだけでなく、経営史研究がどのように行われてきたかを学んでもらう。

到達目標

経営史学の代表的な研究の内容や経営史学の研究方法について説明することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	イギリス産業革命
第3回	19世紀の米国の工業化
第4回	大量生産体制の成立過程
第5回	研究開発とハイテク産業
第6回	イノベーションの歴史に関するディスカッション
第7回	米国のマス・マーケットの形成
第8回	戦前日本の流通
第9回	戦後日本の流通
第10回	大会社の形成と組織
第11回	事業部制の導入過程
第12回	江戸時代の商家と奉公人
第13回	近代的な企業の発展と人事
第14回	企業のマネジメントの歴史に関するディスカッション
第15回	第1学期のまとめ
第16回	第1学期の復習と報告担当者の割り振り
第17回	中世ヨーロッパの都市の同業組合
第18回	重商主義政策と国民経済の形成
第19回	市民革命とビジネスの展開
第20回	宗教とビジネスの関係についてのディスカッション
第21回	ファミリービジネスの歴史
第22回	19世紀末の米国の大会社
第23回	所有と経営の分離について
第24回	イノベーションと企業家
第25回	シティの興隆と国際金融
第26回	米国の金融業の発展
第27回	高度経済成長期の企業と銀行
第28回	近代日本の金融業
第29回	金融業の歴史に関するディスカッション
第30回	第2学期のまとめ

授業計画コメント

経営史学の基本的な内容を復習しながら授業を進めていく。

授業方法

まず講義形式で経営史の基本的な知識について確認してもらう。そのうえで、報告の担当者には、担当となった文献についての報告をしてもらう。そして、その文献に基づいたディスカッションを行っていく。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- (1) 授業の前に予め提示された文献を読んでき。 (1～2時間)
- (2) 報告の担当になった文献について、報告用のレジュメを作成する (3時間)
- (3) 授業内容に關係する文献について読み、授業内容に關する理解を深める。 (1～3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	ディスカッションにおける発言内容
その他(備考欄を参照)	50 %	指定された文献に關する報告内容

成績評価コメント

最終的に経営史の基本的な知識に基づいて議論できるようになったかを評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業の中で、報告の仕方や議論の方向性などで改善すべき点があった場合には指導する。

教科書コメント

報告してもらう文献については、授業の中で提示する。

参考文献

日本経営史の基礎知識,経営史学会編,有斐閣,2004,4-641-18310-4

外国経営史の基礎知識,経営史学会編,有斐閣,2005,4-641-18303-1

企業家学のすすめ,宮本又郎,加護野忠男,企業家研究フォーラム編,有斐閣,2014,978-4-641-16434-5

The Oxford Handbook Of Business History: Oxford Handbooks, Edited by Geoffrey G. Jones and Jonathan Zeitlin, Oxford University Press, 2010, 978-0199573950

参考文献コメント

上記以外の参考文献は、適宜、授業の中で指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220347101	科目ナンバリング	122F045
講義名	経営科学演習(大学院)		
英文科目名	Seminar: Management Science		
担当者名	河合 亜矢子		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 火曜日 2時限 個人研究室		

授業概要

サプライチェーン・システムやに関する理論研究を行う。研究分野はサプライチェーン戦略を基軸とし、情報通信技術、サプライチェーン全体を俯瞰的に捉えたサービスシステムなど、サプライチェーン戦略に関連するトピックを広く対象とする。なお、本演習では、研究倫理教育の一環として、発表やレポート作成等の際の適切な引用の仕方および不用意な剽窃・盗用を避けるための指導も

到達目標

博士前期課程の学生は、サプライチェーン分野において設定された課題に対し、基礎的な分析方法を用いて研究を行うことを目標とする。博士後期課程の学生は、自ら課題を設定し、基礎的及び応用的な分析方法を用いてより高度な水準の研究を行うことを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	研究課題の設定
第3回	研究手法について考える
第4回	先行研究サーベイ(1)
第5回	先行研究サーベイ(2)
第6回	個人発表(1)
第7回	個人発表(2)
第8回	研究の方向性についてのレビュー
第9回	研究指導(1)
第10回	研究指導(2)
第11回	研究指導(3)
第12回	個人発表(3)
第13回	個人発表(4)
第14回	まとめと問題整理
第15回	予備日
第16回	振り返りと研究計画
第17回	個人発表(5)
第18回	個人発表(6)
第19回	問題設定と研究手法の見直し
第20回	研究および論文執筆指導(1)
第21回	研究および論文執筆指導(2)
第22回	研究および論文執筆指導(3)
第23回	個人発表(7)
第24回	個人発表(8)
第25回	論文執筆指導(1)
第26回	論文執筆指導(2)
第27回	論文執筆指導(3)
第28回	個人発表(9)
第29回	個人発表(10)
第30回	予備日

授業計画コメント

受講者と相談の結果、授業計画を変更する可能性がある。

授業方法

論文作成を目的とした演習を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に、研究報告の準備をすること(最低でも10時間は必要)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	問題設定の有用性と論旨の正確さ
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	演習中の発表と討議内容の正確性と独創性
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程:既存の知的蓄積を踏まえ批判的に検討した上で未解決の課題設定を行い、科学的な調査・研究を実施し成果物とすることができる

博士後期課程:既存知識にはない学術的な貢献を行うとともに、自立した専門的研究活動を独自に遂行することができる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

演習中の発表と討議にはその都度コメントをし、フィードバックを行う。期末のレポートについてはコメントと評価を付した上で個別に丁寧なフィードバックを行う。

教科書コメント

適宜指示する。

参考文献コメント

適宜指示する

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

誠実に、好奇心を持って自主的に研究に取り組む学生であることが履修の最低条件

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M220348101	科目ナンバリング	122F046
講義名	経営データ分析演習(大学院)		
副題	Financial Data Analysis		
英文科目名	Seminar: Management Data Analysis		
担当者名	白田 由香利		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 土曜日 2時限 中央－505		

授業概要

The lecture goal is to understand Black-Sholes model and Hull-White model in English. Bayesian inference methods in deep learning are explained because the recent financial analysis requires that. Then statistics terms are explained such as Central Limit Theorem and standard normal distribution. The feature of this lecture is visual explanation of them. Instead of only math expressions, many visual teaching materials are offered which have been published on the web. Students can operate them interactively.

到達目標

Master's program: Understand the Black-Sholes model and Hull-White model.

Doctoral program: In addition, understand the basic concepts of machine learning and pattern recognition.

授業内容

実施回	内容
第1回	Review of the bond mathematics via visual materilas
第2回	Mathematica: collect and draw the stock price data
第3回	Brownian motion model via visual materilas
第4回	Mathematica: Simulation of Brownian motion
第5回	Ito's lemma
第6回	Taylor expansion of two variable function
第7回	Mathematica: Taylor expansion
第8回	Central Limit Theorem via visual materilas
第9回	〃
第10回	95% confidence interval via visual materilas
第11回	Log-normal distribution of stock prices via visula materials
第12回	Mathematica: Log-normal distribution
第13回	Black-Sholes model via visula materilas
第14回	Implied volatility in Black-Sholes model
第15回	Differences between implied and statistical volatilities
第16回	Volatility smile
第17回	Implied correlation
第18回	Hull-White one-factor model
第19回	Hull-White two-factor model
第20回	Pricipal Component Analysis via visual materials
第21回	Review of Linear Algebra
第22回	Mathematica: Eigenvectors and eigenvalues
第23回	Mathematica: Pricipal Component Analysis
第24回	Support Vector Machine and dual
第25回	Bayes' theorem
第26回	Network training
第27回	Bayesian Neural networks
第28回	MCMC
第29回	Gibbs sampling via visual materials
第30回	Mathematica: Gibbs sampling

授業計画コメント

Mathematica is available for the lecture so that the students can implement the math theories visually. Visualization programming experiences in Mathematica makes students deeply understand the meanings of the math processes.

授業方法

授業方法

Alternate lecture and programming in Mathematica.

使用言語

英語

準備学習(予習・復習)

After the class, student will check the mathematical process they learn in Mathematica. The required time would be one hour or so.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

By the attendance times and contents of the submitted reports. In addition for PhD course students, reports concerning data analysis are assigned.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

The reports will be back to students.

教科書

Pattern Recognition and Machine Learning, Christopher M. Bishop, Springer, 2006

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>